



行橋市【福岡県】

文化財を活用したまちづくり基本構想

■策定年月：平成6年3月 ■人口：73,157人 ■面積：70km²
■担当課：行橋市教育委員会文化課（平成30年3月現在）



行橋市は古代より旧豊前国の中心地域として栄え、多くの文化財がある。この豊かな歴史とそれを育んだ自然（水、緑）の保存と活用の望ましいあり方を検討し、『躍動とやすらぎのまち』を構成することを目的として策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

自然と歴史の調和、特色ある古墳と古代の遺跡
古代と中世の山城、近世偉人と文化財、戦争遺跡

課題

- ・調査や整備が進んでいる文化財が少ない
- ・行橋が古代に栄えた地域というイメージに乏しい

保存活用方針

- ・市内の特色ある自然や文化財をまちの個性や風格の形成に活用する
- ・遺跡を住民の身近な憩いの場や学習の場として整備

保存活用のための取り組み

御所ヶ谷神籠石整備

平成5年より遺跡の調査を行い、平成27年から整備を開始した。石壘の修復や遊歩道整備を進め、道標や説明板を設置した。県指定天然記念物のヒモヅルや豊富な樹種を自然形式の植物園として活かし、史跡と自然のフィールドミュージアムを目指す。



稻童1号掩体壕整備

稻童地区に残存する掩体壕のうち1基を公有化した。発掘調査の成果を踏まえて爆弾穴などの遺構を明示したほか説明板を建て、史跡公園として整備している。平成29年度には同地区に所在する空襲時の弾痕が残る煉瓦塀を同史跡に移設し、展示している。



馬ヶ岳城跡整備

馬ヶ岳城跡来訪者の利便性向上のために駐車場整備や説明板や道標の設置を行った。登山口には簡易トイレを設置した。登山道は一部に階段や暗渠を設け、歩きやすいようにしている。道中には行橋市内を一望できる展望台も整備している。

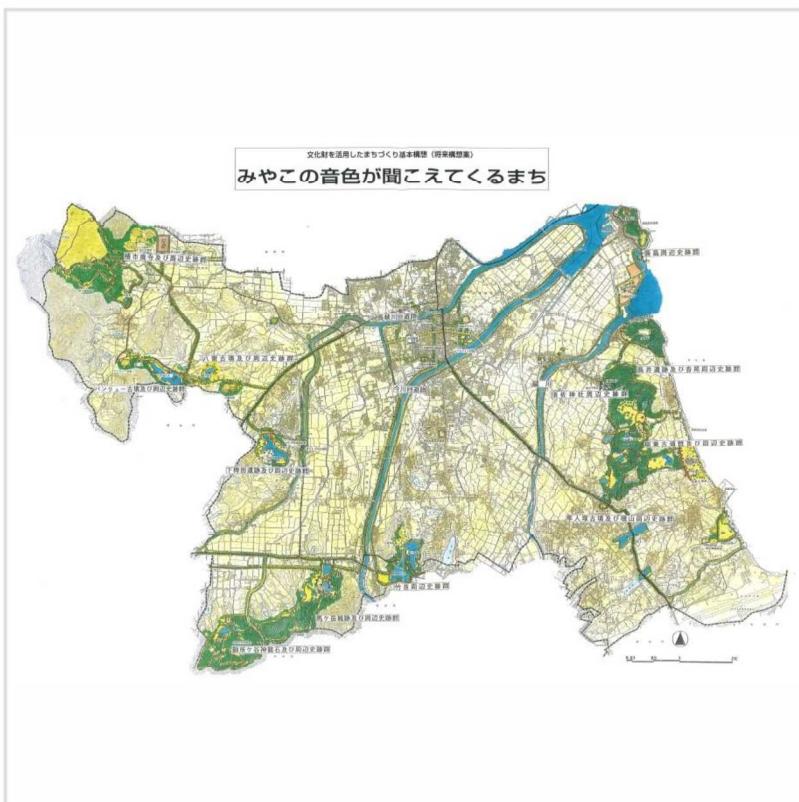


文化財説明板の設置

市内各地に所在する文化財に説明板を設置した。盤面が劣化したものは、内容を精査し文章を改訂した上で修繕している。また、各校区にはその校区の歴史を解説した説明板も設置している。



将来構想案



行橋市は古代には豊前国を中心としていた。それを示す数多くの遺跡があり、中世以降も、魅力ある史跡や文化財に恵まれている。本構想はこの豊かな歴史（史跡・文化財）とそれを育んだ自然（水と緑）の保全と活用について検討し、市民が郷土に誇りと愛着を持ち、来訪者が魅力を感じるまちづくりを進めることを目的として策定した。

ストーリー

・史跡自然ゾーン

自然と共に残る古墳群の調査と保全を進め、稲童古墳群は史跡と自然を核とした公園とする。

・史跡海浜ゾーン

今川、長崎川、舟路川の整備を進め、遊歩道と市中心部の史跡とのネットワーク化を図る。

・水辺回遊ゾーン

今川、長崎川、舟路川の整備を進め、遊歩道と市中心部の史跡とのネットワーク化を図る。

策定後の成果（見込まれる効果）

① 史跡訪問者数の増加

御所ヶ谷神籠石や馬ヶ岳城跡などに駐車場やトイレを設けたことで訪問者が増加した。また、遊歩道整備や道標を設置したことなどで訪問者が快適に散策できるようになった。登山口等にパンフレットを設置し、消費部数を形状することでおおよその来訪者数を把握している。消費部数は各所で年間約900部である。



② 観光部局との連携

観光部局が発行する観光パンフレットに市内の歴史について紹介・説明文を掲載している。また、観光部局が史跡を利用したイベントを主催することが恒例となってきた。近年ではVRやARといった技術を史跡に利用するよう試みられ、稲童1号掩体壕では軍用機が格納されている様子が再現された。



③ 学校教育との連携

小学校からの要望で市芸員が学校におもむき歴史の授業を行ったり、実際に土器を触れてもらったりして地域の歴史・文化に親しみを持ってもらっている。また、古墳の石室見学や掩体壕を利用した平和学習など体験型の授業の要望も出るようになつた。





太宰府市【福岡県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成22年3月 ■人口：71,800人 ■面積：30km²
■担当課：太宰府市教育委員会文化財課（平成30年3月現在）



本市の歴史文化基本構想では、市民と協働のもと、文化遺産を総合的に把握し、見守り・保護・育成していく持続的な取り組みを推進することで『歴史・文化が暮らしの中に“生(いき)”づくまち』を目指すものである。平成16年度に太宰府市文化財保存活用計画を策定、その具体的な取り組みとして平成22年度に太宰府市民遺産活用推進計画を策定し、両者を合わせて歴史文化基本構想と位置付けている。

5 歴史文化を表す つのキーワード

市民遺産、文化遺産、見守る、育成、協働

課題

- ・多様化する文化財保護への対応
- ・市民と協働する文化財保護

保存活用方針

- ・文化遺産をそのものとして見守る
- ・文化遺産を文化財として保護する
- ・文化遺産を市民遺産として育成する

◆ 保存活用のための取り組み

文化遺産をそのものとして見守る

文化遺産調査ボランティア等により、市民目線で様々な文化遺産を拾い上げ、文化遺産データベースを作成し、市の公式HPで公開している。また、文化遺産サポーター等が日々の見守りを実施し、文化遺産の変化を記録し、データベースに反映できる環境を整えている。学術的価値が確定していない文化遺産も市民相互で見守る仕組みである。



文化遺産を文化財として保護する

学術的価値を有する文化遺産の喪失を防ぐため、文化財指定などの行政的な保護施策を推進する。また、様々な調査成果については、「まるごと太宰府歴史展」「太宰府発見塾」などの展示やイベント、また日本遺産事業等を通じて、行政が行う文化財の活用に生かしている。



文化遺産を市民遺産として育成する

市民遺産は、守り伝えられてきたストーリーとの証拠としての複数の文化遺産で構成される。その育成は市民・事業者・行政の協働で次世代に伝えていく取り組みで、各団体や行政が、市民遺産ウォーキングや講演等のイベントや後継者の育成等の事業に取り組んでいる。

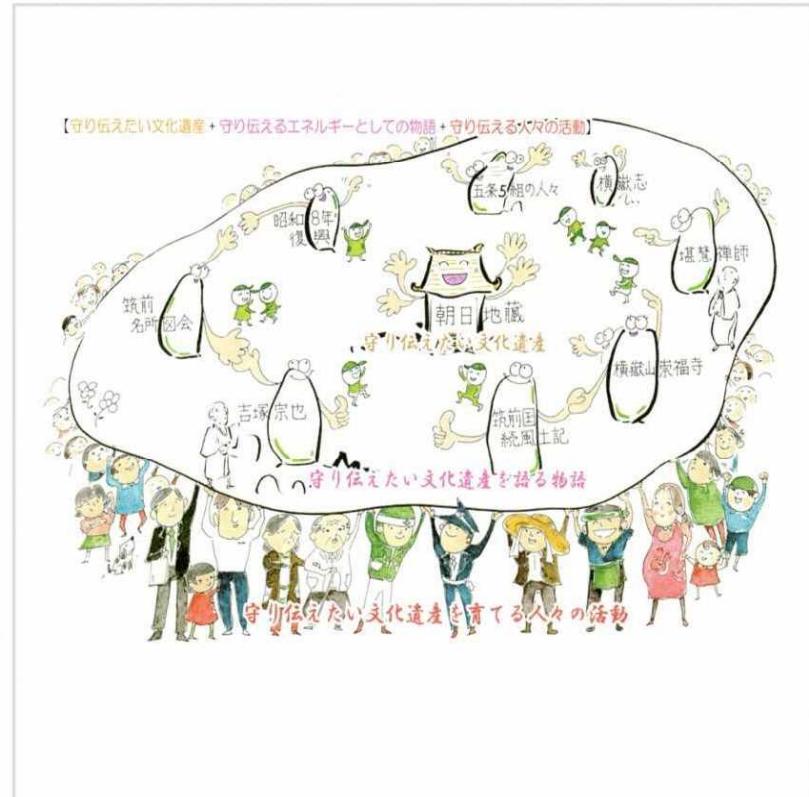


歴史的風致維持向上計画等との連携

歴史的風致維持向上計画や景観まちづくり計画と連携し、太宰府市らしい風土を保全し、本市の歴史的風致を向上させている。また平成27年度に認定された日本遺産をもとに観光部局や関係団体と連携し、地域の魅力向上・発信をすすめている。



◆ 太宰府市民遺産



太宰府市民遺産

太宰府市民遺産とは、市民や地域または市が伝えたい、太宰府固有の物語(ストーリー)、その物語の基盤となる文化遺産、そしてその文化遺産を守り育てる活動に対して、多くの市民が大切だと納得したもので、市民・事業者・行政からなる景観・市民遺産会議によって認定される。

ストーリー

- ①太宰府の木うそ
- ②八朔の千燈明
- ③かつてあった道 四王寺山の太宰府町道
- ④芸術家 富永朝堂
- ⑤万葉集つくし歌壇
- ⑥太宰府における時の記念日の行事
- ⑦隈磨公のお墓
- ⑧太宰府の絵師 萱島家
- ⑨刈萱の関跡とかるかや物語
- ⑩太宰府の梅上げ行事
- ⑪高雄の自然と歴史
- ⑫太宰府悠久の丘
- ⑬太宰府を歌う♪全11曲

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

①人知れず失われる文化遺産の減少

身の回りにある様々なものを、文化遺産と認識することにより、文化遺産を市民生活の身近な存在として位置づけ、市民と共に日々気にかけ、見守ることにより、忘れていた文化遺産を大切にする感情を生み出すと共に、人知れず失われる文化遺産を減少させる。



②文化遺産のまちの回遊性向上

文化遺産・市民遺産・指定文化財等を数多く認め、周知することで、文化遺産のまち太宰府を印象付け、来訪者はもちろん市民が市内の文化遺産を見て回るなどの回遊性を高めることにつながっている。



③市民による文化遺産の保存活用

市民遺産という、市民が文化遺産を自ら後世に残したいと意思表示する場を設けたことで、文化遺産に対して、市民の関心と自主性が生まれ、文化遺産の保護や市民同士の生涯学習につながっている。





宮若市【福岡県】 文化財保護基本計画

■策定年月：平成21年12月 ■人口：28,244人 ■面積：140km²
■担当課：宮若市教育部社会教育課（平成30年3月現在）



宮若市は、文化財に対する市民意識を把握するため、文化財の基礎調査としてアンケートを実施。その結果を総合的に勘案し、市内の文化財を「祖先から受け継がれ、守り残すべき郷土の宝として、次世代へ伝えるべき大切なものの」と位置づけ、市民の協力や関連部局との連携のもと、文化財の総合的かつ計画的な保護を推進し、宮若市民の豊かな心を育む宮若固有の風景の保全・創出を目指している。

5 歴史文化を表す
つのキーワード

装飾古墳、中世山城跡、近世居館跡
農村舞台、近代化遺産

課題

- ・文化財を知る・学ぶ取組の普及
- ・文化財を守り生かす取組の推進

保存活用方針

- ・市民参加型の文化財の調査・公開に求められる仕組み、体制づくりに努め、文化財を総合的に把握、可能な限り公開する

保存活用のための取り組み

市民参加型の調査・公開方針

市民とともに文化財の調査や公開に取り組むことによって、文化財を知ることや文化財から学ぶことの意義をより多くの市民と共有したいと考えている。市民参加型の文化財調査・公開の推進に向けて、それぞれ求められる取り組みを実現する仕組みを構築する。



文化財を守り・生かす取組の推進

この基本計画では宮若市の歴史や文化等の関連性から捉える関連文化財として、まず6つのストーリーを取りあげた。今後も市民参加型の調査を進め、拾い上げた文化財を総合的に把握することにより、あらたな関連文化財を追加し、文化財を守り・生かす取組に繋げる。

文化財としての意義の明確化

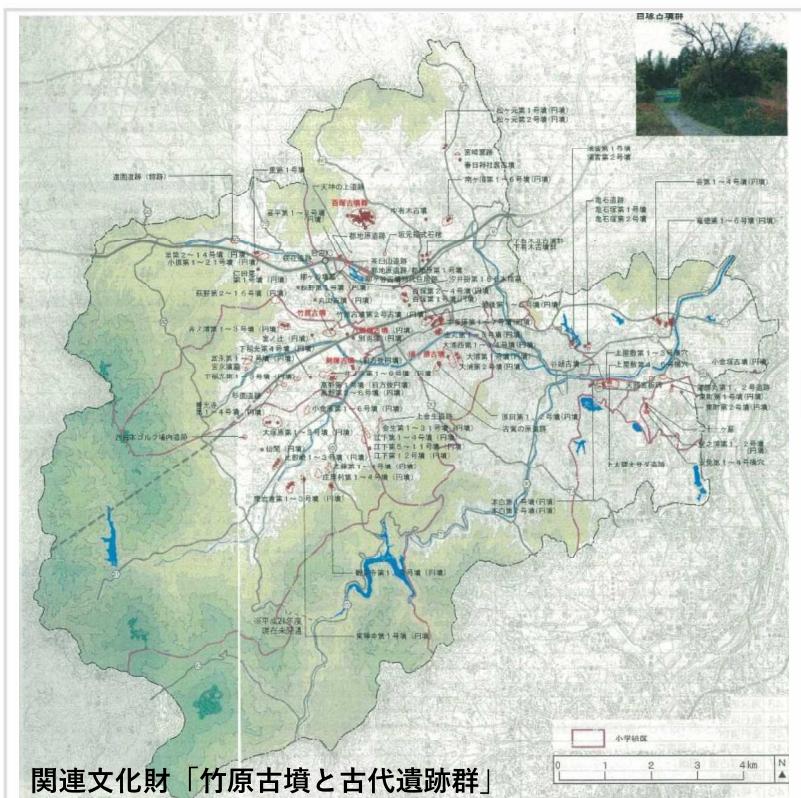
関連文化財の構成要素として取り上げた文化財は、十分にその価値が明らかになったものばかりではない。より多くの市民にわかりやすく文化財の意義を理解してもらうために、明らかになった文化財の関連性を市民に周知するとともに、今後も調査を進める。

市民の協力や関連部局との連携による保存活用の推進

文化財には、維持管理のほか、修理、復旧、修復及び収蔵等の保全整備、案内板設置や周辺整備といった環境整備が求められる。関係者との保存活用方針の事前の共有が重要であり、市民との協力、関連部局との連携により、関連文化財の保存活用方針を定める。



関連文化財



宮若市は、福岡県北部の内陸を流れる遠賀川の支流、犬鳴川流域に位置し、豊かな自然と国指定史跡竹原古墳に代表される古墳や中世山城が多くあり、仏教普及の歴史を物語る仏像、農村文化を伝える野舞台、幕末の歴史を伝える犬鳴御別館、炭坑の歴史を物語るアルコ2号など多種多様な文化財が重層的に構成している。関連文化財の第一次として、6つのストーリーをとりあげている。

ストーリー

- ①「宮若の峰々」重層な緑が覆う山並
- ②「竹原古墳と古代遺跡群」
- ③「信仰を集めた古社寺と神仏」
- ④「中世山城跡と近世居館跡」
- ⑤「伝統的な農村文化と農業技術」
- ⑥「近代化遺産」石炭と銅山

策定後の成果（見込まれる効果）

①竹原古墳保存整備事業

文化財保護基本計画に基づき、関連文化財「竹原古墳と古代遺跡群」の構成要素である国指定史跡竹原古墳の保存整備については、墳丘及び石室の保存を第一義として、平成28年度に保存整備計画の策定が終了。平成29年度から平成31年度までに墳丘保護盛土工事、観察施設の改修工事、外構工事、展示施設の新設の保存整備工事を実施する。



②文化財収蔵施設設置整備事業

宮若市内には、過去の歴史・文化をとどめ、語る有形・無形の文化財が多く所在し、発掘調査により発見された多くの出土品も存在する。文化財保護基本計画を策定したことで、これらの文化財を展示・収蔵する施設の基本計画の策定をすすめていく。



③近代化遺産の保存

宮若市石炭記念館には、明治時代以降の日本の近代化に貢献した石炭産業で栄えた当時の採掘用工具、資料、当時の写真などが収蔵され、充填用砂運搬蒸気機関車「アルコ22号」も展示されている。関連文化財「近代化遺産」を設定したことにより、若宮の銅山と共に本市の近代化産業の発展史として将来への継承が期待できる。



九州・沖縄地方



那珂川町【福岡県】 文化財保存整備基本計画

■策定年月:平成15年1月 ■人口:50,203人 ■面積:75km²
■担当課:那珂川町教育委員会文化振興課(平成30年3月現在)



町全体を博物館と見立てる「なかがわまちエコミュージアム」の実現に向け、文化財を保存・整備、活用するための計画。文化財を繋ぐ発見の小路(トレイル)に沿った学習を通じて、地域住民の文化財への理解を深め、保存・活用への参加を促し、文化財によるまちづくり、新しいコミュニティづくりを目指していく。

5 歴史文化を表す
つのキーワード

安徳大塚古墳、安徳台遺跡群、裂田溝、
さいふみち、神功皇后

課題

- ・住民の参画
- ・関係各課との連携
- ・情報の更新

保存活用方針

- ・文化財を知る指針づくり
- ・文化財を楽しむテーマづくり
- ・文化財を育むひとづくり

保存活用のための取り組み

エコミュージアムの中心基地 (コア) の建設

エコミュージアム推進に先立ち、情報発信の中心基地(コア)としての機能を果たす「歴史博物館」の早期建設を目指す。
コアはエコミュージアム活動の中心施設である。



中心となる遺跡群の整備

「安徳大塚古墳」「安徳台」「裂田溝」「岩戸城」は町の歴史を特徴づける重要な遺跡として位置づけている。エコミュージアムのメインメニュー・整備の出発点として、まちづくりや町内外へのPRの面からも早期に整備し、トレイルマップの整備を進める。

エコミュージアムを生かしたアクションプランの策定

本計画においては、エコミュージアムの手法を取り入れており、この手法で抽出された文化財(スポット)はテーマ毎に発見の小道(トレイル)で結ばれる。これらをもとに、個人、学校、コミュニティ問わず活用しやすいアクションプランの策定を進める。

トレイルに関わる道路や標識などの周辺整備

各課の計画と十分な調整・協議を行い、大切な文化財が傷ついたり紛失したりしないようにし、また、必要施設(サインなど)があればデザインを落ち着いたものにするなど、エコミュージアムとまちづくりのイメージの統一を進める。



なかがわまちエコミュージアムのテーマ



町内には県指定及び町指定の文化財をはじめ、貴重な文化財が多く残っている。町全体を博物館と見立てるエコミュージアムの概念を取り入れ、町の歴史文化への理解を促す27のテーマに基づいて、文化財（スポット）を巡る発見の小路（トレイル）を設定しており、歴史の積み重ねや自然景観を体感できるものとなっている。

ストーリー

- ①古代の風景
- ②なかがわ水の道
- ③堰を見に行く
- ④なかがわの人物
- ⑤なかがわの美術工芸品
- ⑥なかがわの町指定文化財
- ⑦なかがわのまつり
- ⑧なかがわの城跡めぐり
- ⑨なかがわの古墳
- ⑩なかがわの神社



策定後の成果（見込まれる効果）

①住民への周知・理解促進

トレイルのテーマを基に散策ルートマップを作成し、無料配布、ホームページでの閲覧などの方々により、利用者の利便に配慮した情報発信を進めている。また、散策ルートマップと併せてテーマ内容の理解を促すため、看板等の整理も行っている。町外からの利用者も増加している。

②学校での利用

小学校の総合学習において、散策ルートマップを活用し、学びの輪を広げている。幼少のうちから、文化財に触れることにより、文化財を『知る』『楽しむ』意識を育む環境を整えることができている。

③地域団体・町外との関わり

現在活動している地域団体(保存会・歴史研究会・まちづくりサークルなど)や、町外からの来訪者が、散策ルートマップ等を通じて那珂川町の文化財に興味を持ち、トレイルの散策や、ガイドボランティアの利用需要が高まっている。



筑前町【福岡県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成29年3月 ■人口：29,431人 ■面積：67km²
■担当課：筑前町教育委員会 教育課（平成30年3月現在）



地域に存在する文化財を指定や登録、未指定にかかわらず幅広くとらえ、的確に把握し、歴史文化資源をその周辺環境まで含めて総合的に保護継承するための基本構想。筑前町特有の資産ともいえる歴史や文化財を地域の人々が協働して継承し、地域の宝として育てるため、町民、専門家、行政などの様々な主体が協力して、歴史文化を生かしたまちづくりを推進する。

5 歴史文化を表す つのキーワード

戦争遺跡、大藤まつり、石造物と信仰、
仙道古墳と盾持武人埴輪、神宮皇后や地名に関する伝承

課題

- ・周辺環境と一体となった歴史文化資源の保存活用整備
- ・文化資源に対する情報発信の不足

保存活用方針

- ・歴史文化資源を次世代に継承する
- ・歴史文化資源を整備し、活用する
- ・地域の団体・人材を育成する
- ・情報発信を行い交流の輪を広げる

保存活用のための取り組み

歴史文化資源の保存と継承

文化財や伝承の保存や記録の作成を行い、良好な状態で保全する。また文化資源の価値を町民や来訪者にわかりやすく伝えるための、解説版やガイダンス施設の整備を行う。



史跡整備やシナジイガイド施設の整備

今後文化財として指定される可能性のある歴史文化資源については積極的に整備や修復を行うとともに、町の歴史文化資源を案内紹介するガイダンス施設の整備を行う。

地域活動の支援とボランティア ガイドの育成

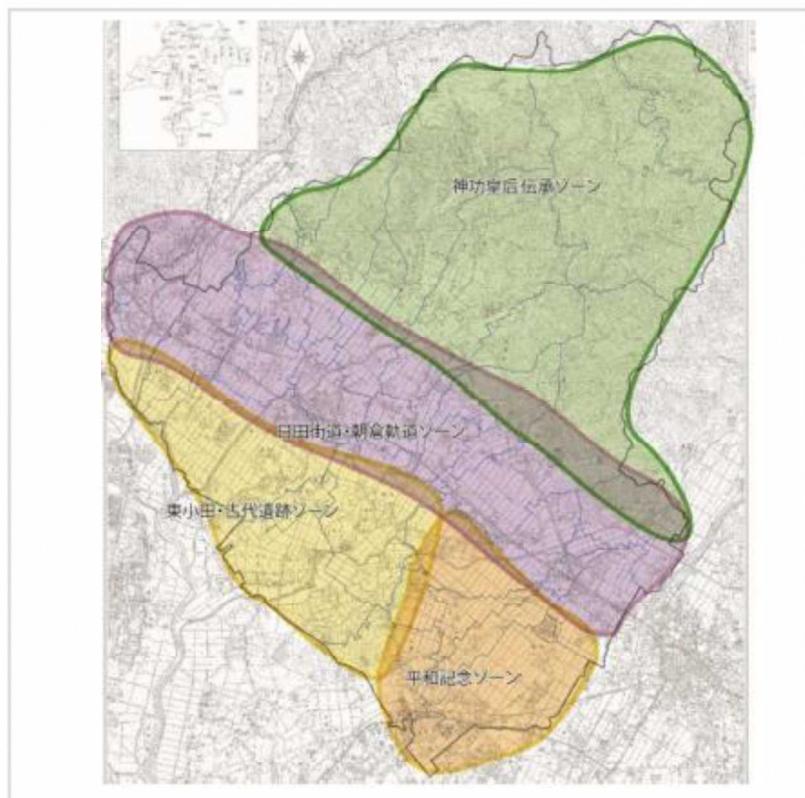
地域で活動する団体やNPO法人などに、ハード、ソフトの両面から支援する。また、歴史文化資源のボランティアガイドの育成を強化し、行政とのパートナーシップを築くことで協働による地域活動や地域資源の継承を促進する。

歴史文化資源・観光・食・土産 のPR

仙道古墳や焼ノ峠古墳などの歴史文化資源、大藤まつりなどの観光資源、地元で採れる野菜や果物をはじめとした食・土産等、町内の特色を生かした、複合的な施策を展開し、様々な手法で情報発信を行う。



活用地区



計画目標に基づき各種事業の実現を目指すため、様々な歴史文化資源、地理的環境、景観特性をもとに、歴史を重層する資源や地域性から文化財施策のためのゾーンを4つ設定した。平和記念ゾーンには、戦前、大刀洗飛行場があり、関連施設、その周辺の旧陸軍施設など当町の特徴を示す歴史文化資源である戦跡遺構が残る。回遊ルート案内など文化財探訪回遊ルートを再検討するとともに平和推進事業での活用に努めている。

ストーリー

- ・日田街道・朝倉軌道ゾーン
- ・神功皇后伝承ゾーン
- ・平和記念ゾーン
- ・東小田・古代遺跡ゾーン

策定後の成果（見込まれる効果）

①郷土愛の育成と文化資源の継承

指定や登録、未指定に係らず町民共有の財産である地域の歴史や貴重な歴史文化資源の価値を再確認することで、郷土への誇りと愛着につながり、歴史文化資源は後世に継承すべきものであると住民の意識向上にもつながる。



②地域の連帯感の増進と活性化

これまで継承されてきた歴史文化資源を核とした、地域での自主的な活動が発生しコミュニティでの連帯感の増進と地域の活性化が見込める。



③行政と地域との連携強化

歴史文化資源を単一的にとらえるのではなく、周辺環境と一体的に保存・活用し、農業や観光など、様々な分野との連携を測ることで、地域や町内の各団体との連携強化や地域活性化が図られ、コミュニティ再生の契機となる。





添田町【福岡県】

歴史的文化遺産活用まちづくり基本構想

■策定年月：平成30年3月改訂 ■人口：9,924人 ■面積：132km²
■担当課：添田町まちづくり課（平成30年3月現在）



平成23年度の基本構想策定後、第5次総合計画後期基本計画の重点行動プロジェクトに歴史まちづくりプロジェクトを掲げ、各種の取り組みを推進している。町のシンボルで、古くから信仰を集める靈峰「英彦山」の下で育まれた歴史的文化遺産の保存活用を通じ、人々の交流と添田町へのシビックプライドを醸成させ、添田町のファンや定住者・企業者の増加・定着を目指している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

山岳信仰、修験道、水分信仰 街道・要衝、莊園

課題

- ・歴史的文化遺産のき損・滅失の進行
- ・歴史的文化遺産の活用施策の展開
- ・歴史的文化遺産の保存活用における民との連携

保存活用方針

- ・歴史的文化遺産の価値を堅実に保存
- ・歴史的文化遺産の魅力を積極的に活用
- ・官民連携による歴史的文化遺産の保存活用

保存活用のための取り組み

英彦山の国史跡指定、保存活用 計画の策定

平成23年度の基本構想策定後、基本構想に位置づけた英彦山の総合調査を進め、国において文化財的価値が認められ、平成28年度に国史跡に指定された。現在、史跡英彦山の価値を活かした取組みを盛り込んだ保存活用計画を策定中である。



中島家住宅の修理、活用に向け た整備、体制構築

平成23年度の基本構想策定後、基本構想に位置づけた国指定重要文化財中島家住宅の活用に向け、保存活用計画策定後、全解体修理と活用整備を進めていく。地元まちづくり団体等と協議・調整を図り、建造物の価値の発信、地域の交流拠点等の検討を進めている。



宿坊等を活用した観光プランの 開発

宿坊等の歴史的文化遺産を活用した観光プランの開発支援を通じ、歴史的文化遺産の普及啓発、交流を促進する。開発支援にあたっては、着地型観光や宿泊体験など、アイディアの効果検証を行うモニターソアーや社会実験等の実施を支援している。

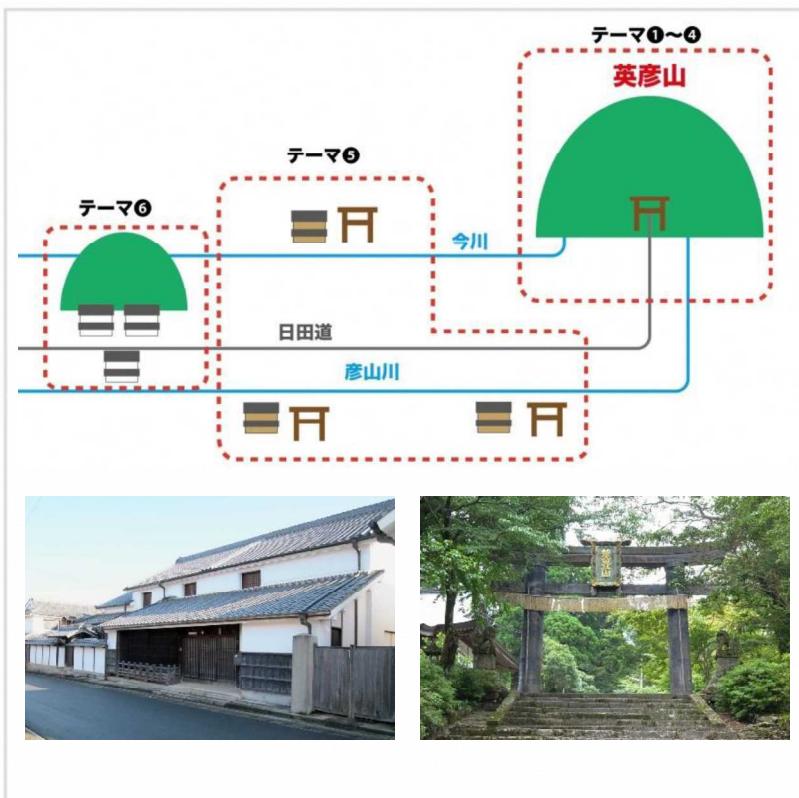


宿坊等の公開活用に向け、官民 連携の保存活用体制構築

宿坊や庭園等の公開に向けた取り組みを進めるとともに、宿坊等の歴史的建造物における有料コンテンツの創出等により、資金循環型のスキーム構築を図るなど、官民連携による歴史的文化遺産の保存活用スキームの構築を進める予定である。



◆ 関連文化財群



添田町の関連文化財群は、町のシンボルであり、古くから信仰を集める靈峰「英彦山」を核とし、英彦山との関係性、歴史文化の活用面を重視し、設定している。英彦山を舞台に設定した関連文化財群が4つ、英彦山から流れ入れる川沿いの集落、英彦山への英彦山参詣に至る街道を舞台に各々1つ設定している。

ストーリー

- ① 英彦山神宮と松会祈年祭
- ② 英彦山門前と彦山踊り
- ③ 英彦山詣でと英彦山権現講
- ④ 英彦山豊前坊高住神社と信仰
- ⑤ 英彦山水系流域と伝統芸能
- ⑥ 英彦山参詣に至る街道・要衝の地と祭り

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① 市内の横断的な取り組みを推進

平成23年度の基本構想策定後、歴史的風致維持向上計画の策定、国の認定を経て、総合計画の重点行動プロジェクトに歴史まちづくりが掲げられた。教育委員会にあった文化財係は、観光係等と一緒にまとまり、横断的に取り組む体制が整い、歴史まちづくりを推進している。



② 文化財指定を通じた計画的な保護

指定・未指定を問わず文化財の保護を通じたまちづくりの基本構想を策定したこと、文化財指定による保護を打ち出しやすくなった。これにより、かねてより未指定の文化財が豊富にあつた英彦山の総合調査を実施し、国史跡に指定された。保存活用計画策定を通じて、計画的な文化財の保護を推進している。



③ 地域の歴史まちづくり組織の設立

基本構想で位置づけた保存活用区域において歴史まちづくりを推進するため、町の支援により、地元住民等で構成される勉強会の取り組みが発展し、地域の歴史まちづくりを推進する団体が設立された。中島家住宅の庭園の草刈りなど、地域で取り組める活動から着実に進められている。





上毛町【福岡県】 文化財活用まちづくり計画

■策定年月：平成24年3月 ■人口：7673人 ■面積：62km²
■担当課：上毛町教育委員会教務課（平成30年3月現在）



町に残る自然、歴史、文化等の資源を活かして地域活動やコミュニティ活動の充実を図り、観光客の受け入れに住民が携わるなど、多様な視点から交流活動を推進し、地域間交流、更には都市との交流を目指すものである。

5 歴史文化を表す つのキーワード

装飾古墳、古代の三毛郡の中心、修驗道関連の遺跡、
地域住民による神楽奉納、清流のホタル

課題

- ・文化財の周知について不十分
- ・盗難、焼失等に対する対策が不十分
- ・地域資源としての活用が不十分

保存活用方針

- ・町の宝を守り、次世代に継承する
- ・町の宝を整備し、活用する
- ・おもてなしの心を広げる
- ・交流の輪を広げる

保存活用のための取り組み

町の宝を守り、次世代に継承する

町の宝である文化財や地域資源は、地域に受け継がれてきた歴史や生活様式を知る貴重な宝である。それらを守り、次世代に継承する。



町の宝を整備し、活用する

未活用の文化財や地域資源を整備し、多様な活用を行う。また、情報拠点や来訪者へのおもてなしの拠点などを整備し、活用する。



おもてなしの心を広げる

地域活動団体を支援し、交流を促進するとともに、おもてなしの心を地域ぐるみで育てる。

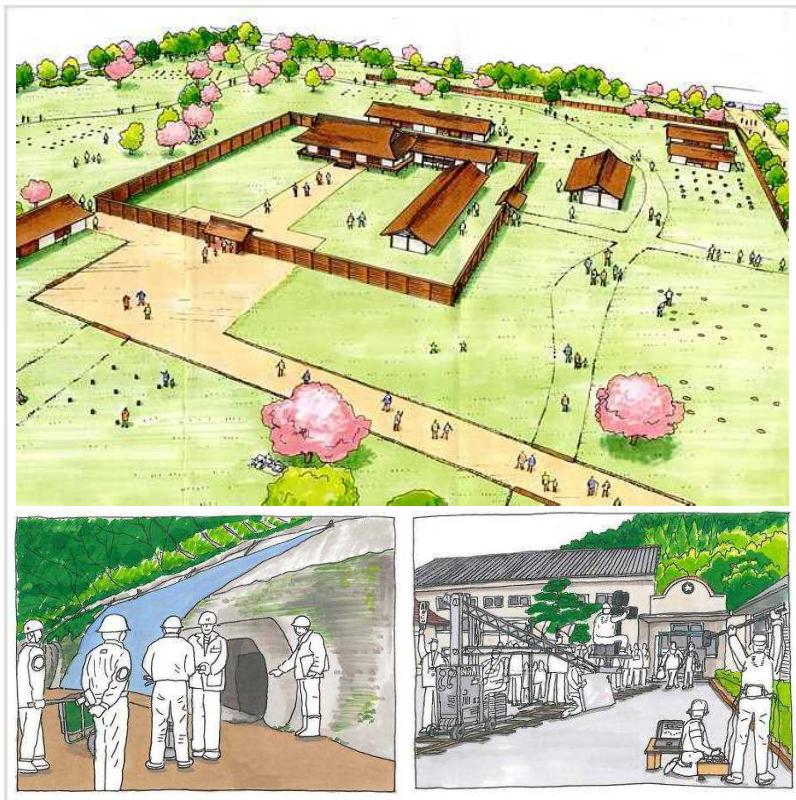


交流の輪を広げる

周辺市町と連携し、史跡や観光地めぐり、食やお土産などの地域資源の情報発信を行い、地域の活性化や人々の交流を促進する。



◆ 関連文化財群



上毛の宝である自然、歴史、文化資源を生かして、おもてなしの心を持って観光客の受け入れに住民が参画し、地域活動やコミュニティ活動、周辺市町との交流活動を推進する。

ストーリー

- ① 人口八千弱の町にある四つの国指定史跡
- ② 修験道と深く関わる文化財、祭礼や習俗
- ③ 周辺の田園・自然景観と一体となる文化財
- ④ 民俗芸能様々な縁起やいわれのある神社や寺院
- ⑤ 地域住民によって引き継がれる神楽
- ⑥ 清流のホタルや滝、四季の花等自然環境資源

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① 見せる

文化財等を「見てもらう」ために、サイン整備や、環境整備を行い、見せる機会を増やすことにより、文化財を町民にとって身近なものにできる。



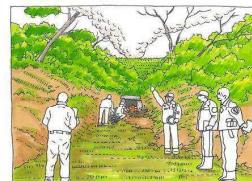
② 知つてもらう

文化財等を「知つてもらう」ために、紹介、案内、情報提供等に取り組むことにより、文化財に興味を持つもらうことができる。



③ 関心を持つてもらう

文化財等に「関心を持つてもらう」ために、様々な観点から魅力を引き出し地域の専門家の話を聞くことにより、価値や位置づけを明確にすることができる。





多久市【佐賀県】歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年3月 ■人口：19,466人 ■面積：97km²
■担当課：多久市教育委員会教育振興課（平成30年3月現在）



孔子廟「多久聖廟」の継承と、文教重視の歴史を基に郷土学習と德育を併せた活動「ふるさと多久学」の視点から、市域の歴史文化の把握と保存活用に繋げる。また「ふるさと多久学」のなかで郷土の特色を表し、関心が高いテーマや地域を、関連文化財群・保存活用区域に設定し重点的に整備することで、特色をより明確にしながら周辺地域を含めた魅力向上を図る。

5 歴史文化を表す つのキーワード

石器原産地、中近世領主、郷学と孔子廟、
漢籍・古文書、炭鉱遺産

課題

- ・域内文化財の総合的把握の継続
- ・歴史的建造物、炭鉱跡施設の保存
- ・文化財が有する様々な価値の把握
- ・文化財に関わる自然環境の把握

保存活用方針

- ・文化財を総合的に把握し、新たな価値をみつける
- ・文化財を守り、継承するための基盤を整備する

保存活用のための取り組み

地域・学校・行政の連携を推進

「ふるさと多久学」の視点から、市内の様々な文化財を保護するために市内全域での継続的な把握を進める。その達成には地域からの保護推進や、学校の体験学習などを通じた情報収集等を授業に取り込み、行政が行なう文化財パトロールとも連携を図っていく。



担い手情報の整備と担い手育成・協働の場づくり

文化財そのものの情報の他に、文化財を保存・継承している担い手や活動内容・成果などの情報を把握・整理し、データベース化を図る。また担い手の相互交流・連携により課題やより深いテーマが見出せるほか、支援や協力依頼ができる協働育成の場を設置する。



文化財の掘り起しと計画的な指定・登録

広く文化財を掘り起し、未指定文化財等の調査と指定登録を行なう。新たな価値を見出すには、市域の歴史や文化の理解をさらに深める必要があり、そのために広域的な情報収集や関連団体等との連携を図る。この過程を通じ、文化財保護の意識共有が可能となる。

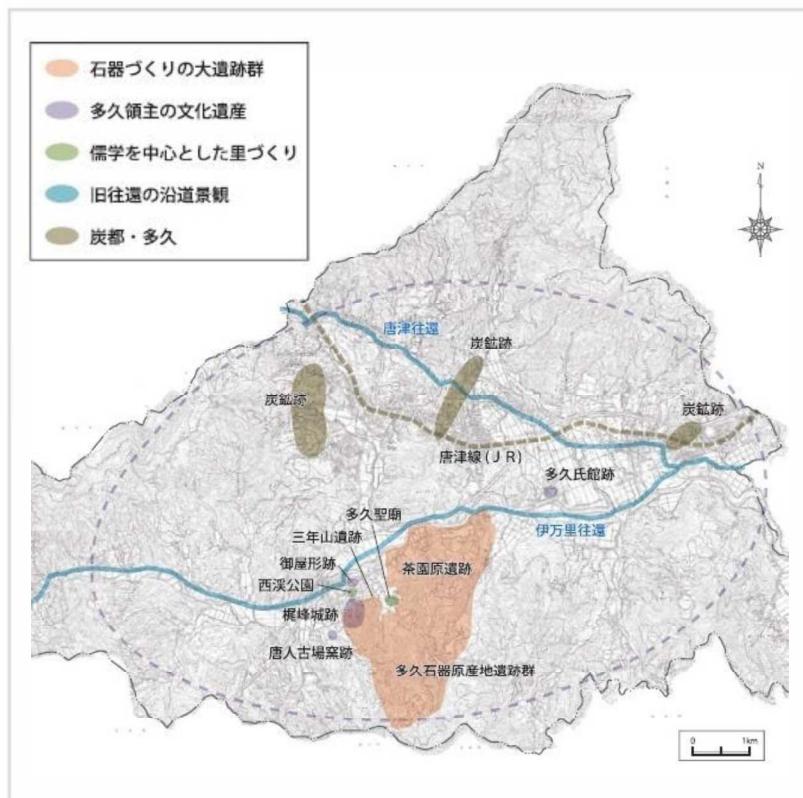


歴史文化を活用した学校教育・生涯学習の拡充

将来を担う子どもたちに、歴史文化への興味を促し文化財を引き継いでいく担い手やセンターになってもらうため、歴史文化やその周辺環境を学ぶ教育プログラムの導入に取り組んでいく。また文化財の見守りや語りなど高齢者の生きがいを育む企画を進める。



◆ 関連文化財群



市域の歴史文化の特色・テーマとして、まず土地の自然の利用がある。古くは原始における石器石材の利用、他に近世末～現代にかけての石炭があり、ともに供給地としての性格を有す。また市域の地理的条件に、過去九州北西地域の交通の要所という面があり、その後の領主等の歴史や、文化のあり方に関わり現在にも通じている。

ストーリー

- ①【石器づくりの大遺跡群】
- ②【多久領主の文化遺産】
- ③【儒学を中心とした里づくり】
- ④【旧往還の沿道景観】
- ⑤【炭都・多久】

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① 文化財の保護・継承

多様な歴史文化を顕在化させてその価値を見出し、それらの適切な保存・活用を図る指針とすることで、住民の地域への理解やコミュニティ再生のきっかけづくり、また文化の薫り高い空間の形成に寄与できる。学校教育では、郷土学習の基礎的資料として提供し授業に役立ち、担い手育成に繋がる。



別府一区の面浮立

② 観光振興

観光部局における振興計画と連携して、歴史文化をもとに観光プラン・地域を整備していくことで、交流人口の増加が期待できる。観光の活性により地域の経済的な活性化にも繋がり、またそれにより地域自身が、より歴史文化の特色と地域の良さを成長させていくサイクルを形成することができる。



中世山城梶峰城跡

③ まちづくり

構想によって歴史文化的保護を広く示すことで、行政の開発部局や民間開発業者、地域住民に協力を求め、抑制を含めて歴史文化の保護を優先した開発の誘導が可能となる。また他の行政分野が進める事業との連携により、総合的なまちづくりや、国の諸制度等に取り組むための体制構築が可能となる。



本多久郭内遺跡



長崎市【長崎県】歴史文化基本構想

■策定年月：平成27年3月 ■人口：42万人 ■面積：406km²
■担当課：長崎市文化観光部文化財課（平成30年3月現在）



長崎市歴史文化基本構想は、長崎市の個性豊かな文化財をその周辺環境も含めた総合的な把握を基礎として、「歴史文化の特性」、「関連文化財群」、「歴史文化遺産の保存・活用の現状と課題」、「保存・活用の基本方針」、「歴史文化保存活用区域」、「保存・活用の体制」等について示した、歴史文化に関する総合的な方針や方向性を示すマスタープランである。

5 歴史文化を表す つのキーワード

海外交流（中国・ヨーロッパ）、天領・藩領、キリスト教文化、近代化の先進地、平和都市（被爆継承・平和発信）

課題

- ・人材不足や環境変化の中、歴史文化遺産の確実な保護
- ・多様な歴史文化遺産を活かしたまちづくりの推進

保存活用方針

- ・保護措置、調査研究、国内外への情報発信を推進する
- ・様々な主体との連携・協働を推進する

保存活用のための取り組み

国際的な情報発信の推進 「ウェブサイトの構築」

長崎市歴史文化基本構想で設定した9つのテーマと26のサブテーマに基づく多言語による文化財の情報発信を行うコンテンツを長崎市公式観光サイト内に構築し、長崎市の歴史文化遺産についての国際的な情報発信に取り組んでいる。



調査・研究の継続 「長崎学の継承」

明治時代の歴史研究に端を発し深化してきた「長崎学」を継承するための体制を整備し、長崎の歴史文化の調査・研究、体系化を推進する。平成28年4月、調査研究機関として「長崎市長崎学研究所」を設置し、紀要の刊行や研究発表、資料取得などを行っている。



社会教育・学校教育との連携 「ながさき歴史の学校の設立」

歴史文化遺産の普及啓発にあたって、より多くの市民に関心を持ってもらう場として「ながさき歴史の学校」を設立し、入門的な講座の開催等により、歴史文化に対する理解の裾野を広げることに取り組んでいる。



地域社会と行政の連携・協働 「文化財サポーター制度等」

文化財の維持管理や歴史文化の普及啓発については、文化財サポーターや「長崎さるく」の市民ガイド等、多くの市民の活動により支えられている。今後ともより多くの市民が文化財や歴史文化の保存・活用に積極的に関わっていくための仕組みを構築していく。



関連文化財群

長崎市の歴史文化の特性と関連文化財群のテーマ

長崎市の歴史文化の特性		関連文化財群のテーマ
A	自然環境との共生 海岸部や山地における長崎特有の自然環境を活かし、共生してきた古代から人々の営み	A-1 長崎市の原始・古代
B	各藩領・地域の文化 地方豪族が創設した中世を起源とする各藩領や地域固有の文化	B-1 大村藩領の文化 B-2 佐賀藩深堀領とその周辺の文化 B-3 佐賀藩諫早領の文化 B-4 天領茂木・橋湾沿岸の文化
C	幕府直轄領長崎の都市構造と町人文化 長崎開港に伴う6ヵ町から始まり、貿易の発展とともに拡大した長崎の町の人々の営み	C-1 長崎氏の城と町 C-2 近世都市長崎とその伝統 C-3 寺社群と中島川石橋群
D	みなと長崎－海外との窓口 ポルトガルやオランダ、中国等の海外諸国との交流により形成された文化	D-1 西洋文化の唯一の窓口 D-2 長崎の中国文化 D-3 海防施設と関連遺跡 D-4 長崎居留地と国際航路
E	全国と繋がる街道 海外との交流拠点であった長崎と国内をつなぐ街道とその周辺の文化	E-1 長崎街道 E-2 満上街道 E-3 茂木街道 E-4 御時道
F	キリスト教文化の拠点 キリスト教の伝播から、繁栄、弾圧、潜伏、復活の歴史を物語る文化	F-1 長崎のキリスト教文化 F-2 博・口神父のまちづくり
G	近代化の先進地 海外交流によりもたらされた近代技術や海外情報を発信し、日本の近代化の基礎を築いた文化	G-1 近代化的黎明 G-2 近代造船遺産 G-3 近代石炭産業遺産 G-4 近代長崎の都市インフラ
H	平和都市長崎 世界に向けて核兵器廃絶と平和への願いを発信し続ける平和都市長崎	H-1 長崎の被爆継承と平和祈念
I	交流で培われた長崎の芸術・芸能、工芸、生活文化 交流をきっかけに長崎に持ち込まれ、発展し、現在も継承されている文化	I-1 海外交流とゆかりの深い芸術や工芸技術 I-2 長崎の伝統芸能・行事・生活文化 I-3 長崎独特の食文化

文化財は歴史的、地域的に相互に関連性を有し、地域の歴史文化を物語る重要な資産である。長崎市の歴史文化の特性を物語る9つのテーマと26のサブテーマを設定し、各サブテーマと関連する文化財群について一体的に整理を行って、歴史文化遺産の魅力や価値を分かりやすく示した。

ストーリー

- ①自然環境との共生
- ②各藩領・地域の文化
- ③幕府直轄領長崎の都市構造と町人文化
- ④みなと長崎－海外との窓口
- ⑤全国と繋がる街道
- ⑥キリスト教文化の拠点
- ⑦近代化の先進地
- ⑧平和都市長崎
- ⑨交流で培われた長崎の芸術・芸能、工芸、生活文化

策定後の成果（見込まれる効果）

①歴史まちづくりの方針が決定
長崎市の歴史文化遺産を活かしたまちづくりのマスタープランが策定されたことにより、周辺環境と一体となった文化財の保存・活用を進めていくための方針や保存活用区域の設定ができた。
基本構想を関係部局と共にすることで、様々な市の施策や計画との連携を図ることが可能となった。



②歴史文化資源の総合的把握
これまで、個々の文化財について個別の保存活用計画のもとその保存整備を図ってきたが、歴史文化遺産を指定文化財という枠組みにとらわれず総合的に把握することで、これまで「和華蘭文化」と表現してきた長崎市の歴史文化の特性が体系化され、明確となった。



③歴史まちづくり法との連携
基本構想に基づく保存・活用の取り組みの具現化に向け、歴史まちづくり法に基づく「歴史的風致維持向上計画」の策定に取り組んでいる。
歴史的建造物と人々の営み、良好な市街地環境が一体となった歴史的風致の維持向上に向けて、ハード・ソフト両面からの取り組みを推進していく。





平戸市【長崎県】歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年3月 ■人口：32,004人 ■面積：235km²
■担当課：平戸市文化観光商工部文化交流課（平成30年3月現在）



平戸市歴史文化基本構想は、地域資源（以下「資源」）の総合的な把握を基礎として、文化観光の推進による地域活性化を推し進めていくための構想であり、「地域の文化的価値をどのように位置づけ普及啓発を図るか」、「地域資源の有効活用や保存保全の目標をどのように設定し運用を図るか」、そして「短期から中長期におけるロードマップをいかに設定するか」を示した文化財保護のマスタープランである。

5 歴史文化を表す つのキーワード

航路（南路）、港市、城下町、
国際交流、生活生業（捕鯨・漁業・棚田）

課題

- ・住民に認知されていない資源の保存保全と活用
- ・保存保全のための資源の活用を含めたマネジメント

保存活用方針

- ・循環的な仕組みを整える（普及啓発→有効活用→モニタリング→保存保全）
- ・宝探しの推進（宝を探す→磨く→誇る→伝える→興す）

保存活用のための取り組み

循環的な仕組み その1 「資源の普及啓発を図る」

- ・地域固有の自然、歴史、文化、産業、人などの資源を地域住民が自ら探し、再認識するための取り組み
- ・新たな視点を加え、住民にとっては日常的なもの資源として生かす取り組み

※地域勉強会の開催など



循環的な仕組み その2 「資源を有効活用する」

- ・再認識された資源を磨き、文化観光に利用するための取り組み
- ・地域の外に向かって、資源の価値を情報発信するための取り組み
- ・資源を活用し産業に結びつけるための取り組み

※質の高い体験の提供など



循環的な仕組み その3 「資源をモニタリングする」

- ・資源の価値の低下を引き起こさないようにするための取り組み
- ・中長期的に経過を観察するための指標の作成
- ・資源性の低下が認められた時の対応策の検討

※モニタリングインデックスの作成など



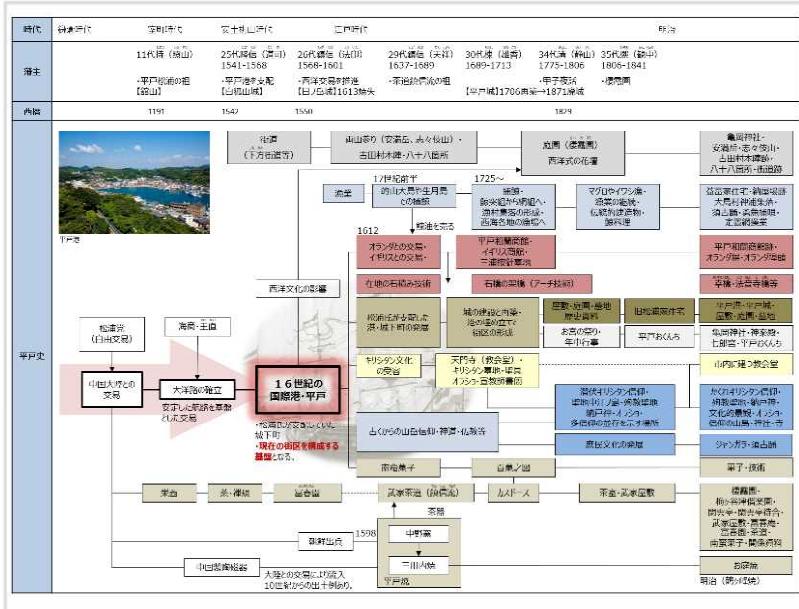
循環的な仕組み その4 「資源が保存保全される」

資源を、保存、継承、発展させるための取り組み。住民に認知され、適正な利用を前提とし、モニタリングを組み込んだ循環的、発展的な保存保全の仕組みが完成する。

※社会システムの活性化による住民主体の仕組みづくりなど



関連文化財群



港市平戸を中心に展開してきた平戸の関連文化財群イメージ図

16世紀の大航海時代、平戸松浦家が支配していた「港市平戸」で行われた国際交流によって、様々な西洋文化がもたらされた。これらの文化は、城下町を中心に周辺集落にも受容され、在来の技術や文化に影響を与えた。その一部は現在にまでその痕跡を伝えている。基本構想では、平戸市の歴史的環境や文化財の特徴を踏まえて分けられた3つのテーマに沿って、下記の8つのストーリーを設定している。

ストーリー

- ①平戸おくんちにみる関連文化財群
- ②武家茶道にみる関連文化財群
- ③港を支配していた平戸藩主松浦家にみる関連文化財群
- ④国際交流を基層とする関連文化財群
- ⑤キリスト文化を基層とする関連文化財群
- ⑥捕鯨から展開してきた漁業集落にみる関連文化財群
- ⑦農山漁村集落（春日集落と安満岳）にみる関連文化財群
- ⑧下方街道にみる関連文化財群

策定後の成果（見込まれる効果）

①歴史文化まちづくりの方針が決定

平戸市の歴史文化まちづくりのマスタープランが完成したことにより、文化財行政を一貫して行うための方針ができた。計画対象地域に所在する貴重な歴史や文化、自然、生活生産など多様な資源を総合的に把握し、その価値を関係部局と共有することで、より横断的な市の事業計画を立案することができた。



②資源の文化的位置づけが明確に

指定文化財という枠組みにとらわれず、資源を総合的に把握し、歴史的文化脈に沿った価値付けに再編することで、これまで文化財行政では扱ってこなかった周辺環境の重要性について再認識することができた。地域独自の資源を基盤とした文化観光の推進は、他地域との差別化を図ることにつながり、交流人口の増加を促した。



③ロードマップに沿った事業展開

過疎化が進む集落の資源は「活用を推進しなければ守ることはできない」との観点から事業を戦略的に展開する必要がある。基本構想では、住民が資源の価値を再認識することからはじめ、資源の磨き上げと情報発信、モニタリングの実施など、資源を持続的に活用していくためのロードマップを作成した。





人吉市【熊本県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成27年3月 ■人口：34,511人 ■面積：210km²
■担当課：人吉市教育委員会歴史文化課（平成30年3月現在）



人吉市内には、古社寺、仏教美術、史跡、無形民俗文化財などの指定文化財だけでなく未指定の文化財も数多く存在する。これらの文化財に関する情報の整理を行い、かけがえのない遺産を、市民に知つてもらい、次世代へ引き継ぐため、保存整備活用を行い、文化財を中心とした将来的なまちづくりに活かせるものとするため歴史文化基本構想を策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

史跡群、仏教美術、古社寺群、鉄道遺産、郷土芸能

課題

- ・多数ある文化財の把握、整理の不足
- ・文化財の適切な管理の不足
- ・保存のための資金の不足
- ・地域振興や観光振興に結びつける担い手の不足

保存活用方針

- ・文化財を護る（調査、指定、修理等）
- ・文化財を育む（機運醸成、人材育成）
- ・文化財を魅せる（活用、情報発信、交流促進）

保存活用のための取り組み

「相良700年」を物語る史跡群

史跡人吉城跡は、中世から近世までこの地を治めた相良氏の領国支配の拠点となつた城郭で歴史文化の象徴的存在であり、地域住民の心の拠り所として、史実に基づいた保存復元を行うことに加え、地域学習の場や観光資源として活用を図っていく。



「ほとけの里」人吉球磨に花開いた仏教美術と信仰文化

美術工芸品でもある仏像の多くは、お堂などの建物内に安置されている。しかし近年、お堂を守る地域住民の高齢化により、その維持管理や信仰文化の伝承など各種の問題を抱えており、その解決策を関連する広域の遺産群との連携や運動を視野にいれ検討する。



相良700年の歴史の風格を感じさせる古社寺群

当地域の古社寺は、その多くが中世の名残ある特有の建築様式を残す茅葺き建造物である。これらの修理計画を球磨地域文化財広域連携協議会で策定し、その歴史的価値を損なうことなく保護し、地域学習の場や観光資源としての活用も図りながら後世に伝えていく。

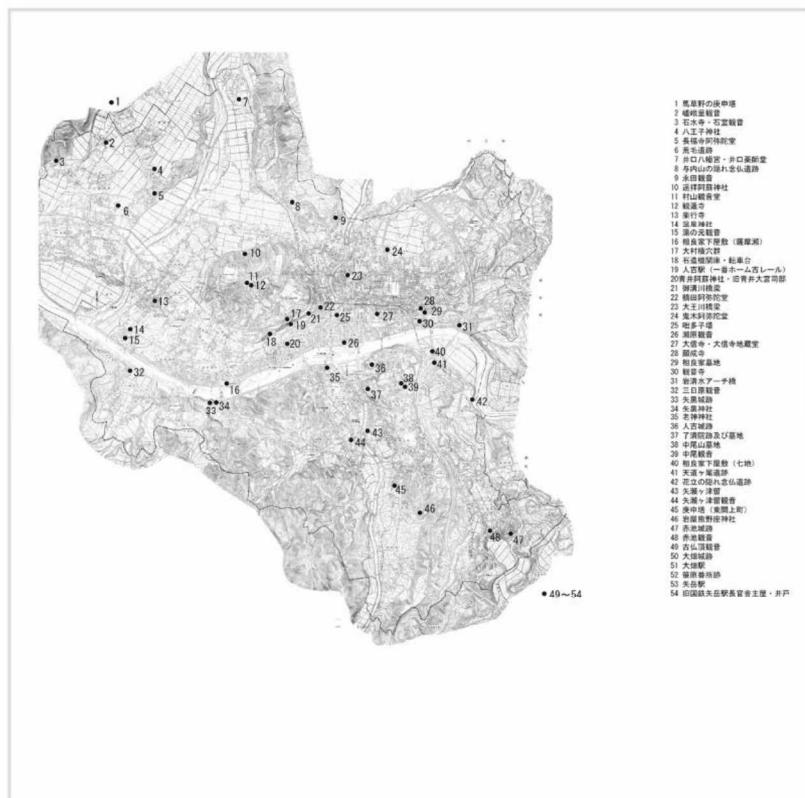


綿々と受け継がれてゆく郷土芸能

球磨神楽、ウンスンカルタ及び臼太鼓踊りは、保存団体の取り組みにより地域住民への周知や継承者育成が行われている。他の郷土芸能も伝承に取り組む団体による公演の場を作ることで伝統芸能継承の重要性を、地域住民に周知することで保護を図る必要がある。



関連文化財群



数多くの文化遺産は、保護活用のあり方も多い多様であると考えられる。また現代の人吉市において、目にすることできる文化遺産は、相良氏700年の統治により培われ醸成されたものが圧倒的に多く、「相良700年が生んだ保守と進取の文化」とテーマを設定している。

ストーリー

- ①人吉球磨の黎明期
- ②「相良700年」を物語る史跡群
- ③「ほとけの里」人吉球磨に花開いた仏教美術
- ④相良700年の歴史の風格を感じさせる古社寺群
- ⑤人吉球磨の近代史を語る現役の鉄道遺産
- ⑥綿々と受け継がれてゆく郷土芸能
- ⑦人々の信仰と祈り、「おもてなし」の文化

策定後の成果（見込まれる効果）

①城下町エリアの活用

近世城下町としての歴史的価値を護りながら磨き上げ、城下町エリア内に点在する文化財や歴史文化遺産を線でつなぎ、訪問客のニーズに合わせた散策・周遊コースの設定をした。今後さらに行政・住民が一体となり城下町としての認識や魅力を磨き上げ観光面でも魅力を増していくことができる。



②歴史学習の拠点・人吉城歴史館

生涯学習・学校教育と連携し地域の学習の拠点としての役割を果たしていると同時に観光施設としても定着している。文化財保護の拠点としての機能を持ちながら相良700年の歴史とその象徴である人吉城跡を中心に歴史学習及び情報発信の拠点として活用している。



③鉄道遺産の情報発信施設

肥薩線とくま川鉄道は、地域の近代化を象徴する「生きた鉄道博物館」である。その歴史的・文化的価値を未来へ継承し地域振興へ寄与する施設として「人吉鉄道ミュージアムMOZOCASテーション868」を開設した。今後もガイダンス施設と観光施設としての機能を強化し観光客誘致につなげていく。





多良木町【熊本県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年5月 ■人口：9,674人 ■面積：166km²
■担当課：多良木町教育委員会教育振興課（平成30年3月現在）



多良木町では平成21年度より専門家や地域住民による歴史文化遺産の悉皆調査を実施した。この調査により、多良木町の歴史的特性として「文化の境界性」が明確化された。その影響下、平安時代には多様な神仏像が作られ、これらは相良氏が建造した古社寺により保全され、今なおその信仰心は途絶えることはない。このような古社寺を核とした歴史文化遺産は、重要な普遍的価値を有するものである。

5 歴史文化を表す つのキーワード

大久保遺跡群、中世的景観の形成、
相良氏関連遺跡群、新田集落、五間道路

課題

- ・未指定文化財等の悉皆調査
- ・魅力ある関連文化財群の設定
- ・担い手の確保及び育成

保存活用方針

- ・歴史文化遺産の本質的価値の追求
- ・歴史文化遺産を活用した地域振興
- ・歴史文化遺産を活用した産業創出
- ・歴史文化遺産を活用した観光振興

保存活用のための取り組み

本質的価値の追求

熊本大学・九州大学などの専門家による調査を継続的に実施し、その成果は“歴史回廊セミナー”として広く住民に周知する。



“歴史文化遺産を護る”

- ・文化財管理者へ向けた保護意識の啓発、定期的な巡回作業
- ・計画的な補修・修理支援
- ・景観の維持、耕作放棄地を作らないシステム作り



“歴史文化遺産を育む”

- ・地域が発見した資源の登録
- ・調査、研究事業
- ・文化財管理者間の情報共有
- ・重要遺跡群の国指定の推進
- ・伝統芸能の継承事業

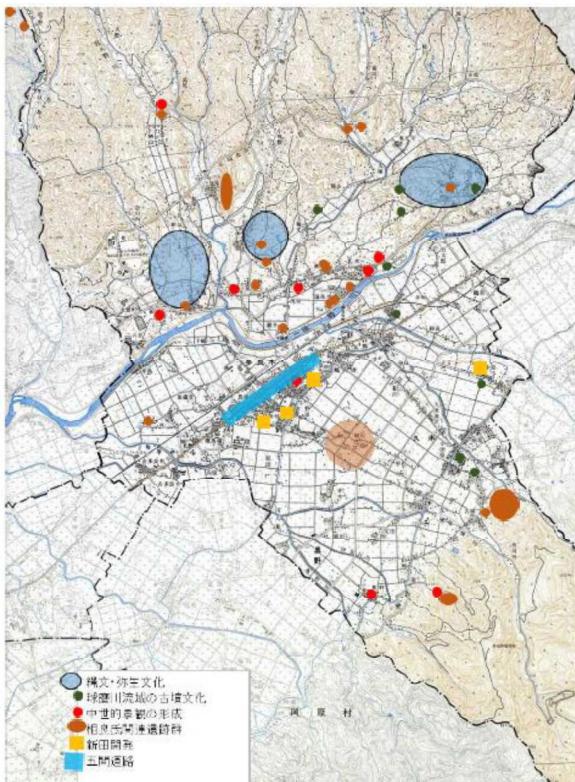


“歴史文化遺産を魅せる”

- ・埋蔵文化財センターでの展示企画展
- ・歴史探訪コースの設定
- ・魅力発信施設への支援
- ・中間紫衣団体の創設
- ・特産品づくり



◆ 関連文化財群



過去の調査結果及び総合把握調査から多良木町の文化財の特徴を検討すると、「大久保遺跡群」「球磨川流域の古墳形成」「中世的景観の形成」「相良氏関連遺跡群」「新田集落」「五間道路」といった多良木を形成している特性が認められる。

ストーリー

- ① 時間のもたらす特色と魅力
- ② 空間の特色と魅力
- ③ “山道”と“川道”的交わりの特色と魅力

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① 価値の創出

調査により、多良木町には平安時代まで遡る仏像が多く残っていることがわかりました。このように多良木町には未だに未指定の遺産が数多く存在します。今後の調査により、新たな所見が得られる可能性を秘めています。



② 付加価値の創出

調査により価値が明確となった歴史文化遺産を活用するための商品開発に繋がります。歴史文化遺産と地場産業を繋げることで地域活性化に役立ちます。



③ 体験できること

現在の観光は“鑑賞”から“体験”へと転換しています。歴史文化遺産を活用した体験メニューを開発するために、歴史文化基本構想が役立っています。





湯前町【熊本県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成30年3月 ■人口：3,977人 ■面積：48km²
■担当課：湯前町教育委員会（平成30年3月現在）



湯前町は、歴史的価値の高い建造物が多く現存し、歴史と伝統を反映した活動も今なお地域に息づく、歴史文化遺産の豊富な町である。この歴史文化遺産を長期的かつ計画的に保存・活用し、魅力溢れるまちづくりに帰するため、関連する歴史文化遺産と周辺環境を一体的に保護していくための総合的、体系的な方針や方向性を明らかにした「湯前町歴史文化基本構想」を策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

相良700年の歴史、三十三観音巡り
幸野溝と球磨焼酎、集落の文化、那須良輔とまんが

課題

- ・歴史文化遺産の保全・保護・継承
- ・歴史文化遺産を活用したまちづくりの推進

保存活用方針

- ・歴史文化遺産のデジタルアーカイブ化とデータベース化
- ・保全・活用を支える組織や地域人材の育成

保存活用のための取り組み

歴史文化遺産の継承者育成

人口減少と高齢化の進行により存続が危惧される無形民俗文化財を映像等に記録・保存し、地域の歴史文化の伝承と情報発信を推進するとともに、生涯学習や小中学生の総合学習等において利用することで、広く住民に郷土の歴史・文化・芸能等に関する学習機会を提供している。



行政内部の横断的推進体制の確立

府内に町制推進プロジェクトチーム（歴史まちづくり）を設置し、各事業担当課と府内の横断的な連携を図りつつ、保存・活用等の事業について計画内容の進行状況や関連事業の協議を行うとともに文化財保護委員会等とも連携をする。



歴史文化遺産の保存・維持管理

適切な保存管理や活用が図られるよう、建造物や史跡ごとに保存活用計画の策定を進め、計画的に修理整備などを推進する。
適切な維持管理と点検を行うことで損傷の早期発見に努め、所有者等の意識向上のため適切な助言を行う。

デジタルアーカイブ化とデータベース化

歴史文化遺産に関する情報が入手できる環境を整備することは、今後の歴史文化遺産の保存・活用にとって不可欠な条件といえる。
市民共有の財産として歴史文化遺産のデジタルアーカイブ化を進め、データベース化を構築し、情報発信基盤を強化する。

◆ 関連文化財群

キーワード	テーマ	構成要素
歴史	【テーマ1】 相良700年の歴史文化を 彩る歴史文化遺産とまちなみ	明導寺阿弥陀堂・八勝寺阿弥陀堂・御大師堂・湯 前城跡・市房山神宮遷拝所跡・市房山神宮里宮神 社・幸野溝・野地番所跡・的場土休(自休)の墓・ 社寺堂宇一式・庚申塔などの石造物 球磨神楽・お嶽さん参り(どっこい祭)・東方組 太鼓踊り・浅鹿野棒おどり
	【テーマ2】 相良三十三観音巡りにみる 歴史文化遺産と風習	相良三十三観音めぐり・ご詠歌・お接待 普門寺観音堂・宝陀寺観音堂・上里観音堂
近代化	【テーマ3】 湯前の産業を支える 幸野溝と球磨焼酎	幸野溝・下町橋・球磨焼酎・球磨峯・盲会 林酒造場・豊永酒造場・旧市房酒造場・
	【テーマ4】 湯前の近代化の窓口をなしてきた くま川鉄道とまちなみ	くま川鉄道湯前駅本屋・くま川鉄道高橋川橋 梁・明導寺本堂・下町橋・古町橋・御大師堂忠 靈塔・井上微笑と句碑・球磨銀冶
	【テーマ5】 那須良輔とまんがのまちづくり	那須良助と風刺漫画 湯前まんが美術館
集落	【テーマ6】 集落に息づく伝統文化	東方組太鼓おどり・浅鹿野棒踊り・お接待・鐘 の織・お伊勢講・祈祷時・観月祭(十五夜 祭)・さななり・淫槃会・おっぱい祭・花まつ り・稻荷祭・山の神信仰・夜角神祭 山北幸と下村婦人会・骨かじり・直会 潮神社・稻荷神社・地蔵堂・田上薙跡

歴史文化遺産を総合的に保存・活用するため、ストーリー性を有した地域の歴史や文化を語る重要な地域の資産として、関連文化財群「湯前遺産」を設定する。歴史・集落文化・近代化をキーワードに、具体的なストーリーを持たせる大枠のキーワードの中にテーマを設定して整理している。

ストーリー

- ①歴史文化を彩る歴史文化遺産とまちなみ
- ②三十三観音巡りにみる歴史文化遺産と
風習
- ③産業を支える幸野溝と球磨焼酎
- ④近代化の窓口としてのくま川鉄道とまち
なみ
- ⑤那須良輔とまんがのまちづくり
- ⑥集落に息づく伝統文化

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

①歴史文化遺産の継承

町民の意識啓発のため、学習機会の創出、日常的に歴史文化遺産に触れる機会が拡大する。学校教育における歴史文化学習時間数の増加や生涯学習等への住民参加の増加が見込まれる。また、地域伝統芸能の保存活動にも若年層が関心を高めることが見込まれる。



②行政内部の横断的体制の確立

府内各々の部局が実施していた歴史文化遺産に関する事業を、町制推進プロジェクトチームを設置して横断的に行うことにより、各事業担当課の連携・情報共有が進められ、全府的に事業が進められる。



③歴史文化遺産の保護・維持管理

歴史文化遺産の保存活用計画の策定を進め、計画に基づき修理・整備を実施し、防災・防犯対策を実施することで、適正な保存管理が図られる。また、住民が維持管理に関わることで、歴史文化遺産への認識・理解が深まり、保存活用への取り組みに対し参画・協働していく意欲が醸成される。



日南市【宮崎県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成23年3月 ■人口：51,959人 ■面積：536km²
■担当課：日南市教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



一市二町の合併で誕生した日南市では市民の一体感を醸成していくことが大きな課題であったため、合併前の各地域を特徴づける文化遺産のまとまりを8つの関連文化財群として捉え、7つの歴史文化活用保存区域を設定した。自分の住む土地に誇りを持った市民がそれぞれの地域で魅力あるまちづくりに取り組むための理論的支柱となり、市民一丸となって文化遺産の保存・活用が図られるよう、本構想を策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

城下町と港町、 信仰と神話、 文化的景観、
交通関連文化財、 中世城郭

課題

- ・伝統的建造物の空き家対策
- ・歴史的景観価値の再評価
- ・各集落に伝わる年中行事等の維持
- ・農林漁業等伝統技術の保存と継承

保存活用方針

- ・文化財の調査と指定、修理等補助
- ・人材育成と組織づくり、地域連携
- ・サイン整備と情報発信
- ・地域の伝統産業育成

保存活用のための取り組み

重要伝統的建造物群保存地区 飫肥における修理・修景

伝統的建造物群保存地区内の建築物や工作物等について歴史的風致を維持するため、国庫補助による修理・修景事業を行っている。伝統的建造物は主としてその外観を維持するための修理を行い、石垣・板塀等破損の甚だしいものは築造当時の形式手法で修理、ブロック塀等は石垣等に修景する。



歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業

平成30年3月10日～18日の9日間、伝建地区選定40周年を記念したイベント「DENKEN WEEK」を開催した。飫肥伝建地区の建造物等を活用したプロジェクトマッピングや映画上映、ガストロノミー＆マルシェ、アート展等を開催し、9日間で観光客約12,000人を集客した。



歩き・み・ふれる歴史の道「飫肥街道」ウォーキング

飫肥城下と飫肥藩領清武郷を結ぶ山仮屋関所跡付近の旧街道約4kmをゆっくりと散策する。平成14年度から年1回のペースで実施している。小規模イベントであるが、毎年継続実施することで歴史の道の周知と保存・活用の推進を図っている。

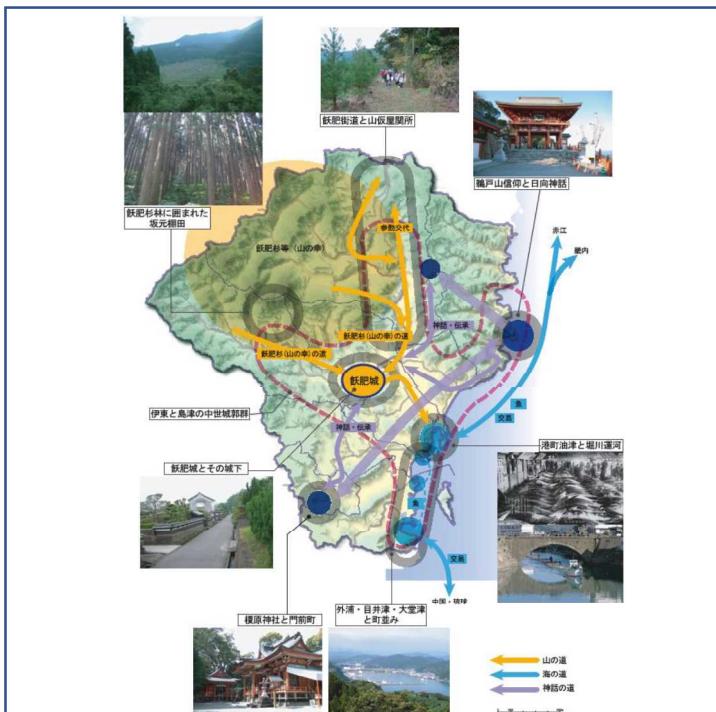


生涯学習講座「わかすぎ号で地域発見講座」

市のマイクロバス（わかすぎ号）で、市内各地域を廻り、ふだんはあまり知られることのないその土地の魅力を体感する講座を年に6回程度実施している。毎年市内各地域からの受講希望者が多い。



関連文化財群



本市歴史文化基本構想においては、次の各条件に適合する文化遺産のまとまりを関連文化財群として設定している。

- ・ストーリー性があること（群として把握することにより価値が明確になること）
- ・歴史的に共通項があること
- ・地域の歴史や文化、伝統をよく表していること
- ・地区住民が誇りに思うこと

ストーリー

- ① 飫肥城とその城下
- ② 飫肥杉林に囲まれた坂元棚田
- ③ 港町油津と堀川運河
- ④ 鶴戸山信仰と日向神話
- ⑤ 榎原神社と門前町
- ⑥ 外浦・目井津・大堂津と町並み
- ⑦ 飫肥街道と山仮屋関所
- ⑧ 伊東と島津の中世城郭群

策定後の成果（見込まれる効果）

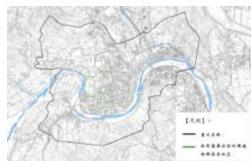
① 坂元棚田の重要な文化的景観選定

平成25年10月17日に「酒谷の坂元棚田及び農山村景観」が、宮崎県内では初めて重要文化的景観に選定された。坂元棚田保存会では、宮崎大学農学部と連携し、棚田米の品質向上を目指した研究への協力を続けている。また、棚田オーナー制度による地域外交流を長年続け、棚田景観の保存に努めている。平成29年11月には、第1回美しい宮崎づくり大賞を受賞した。



② 歴史的風致維持向上計画の認定

日南市では、平成22年度に策定した「日南市歴史文化基本構想」を元に「日南市歴史的風致維持向上計画」を策定し、平成25年11月22日に国の認定を受けた。認定後の平成27年度に電線地中化事業を終え、現在は景観計画に基づく民家修景事業や伝建地区の修理修景事業等に取り組んでいる。歴史文化基本構想の策定が、歴史的風致維持向上計画認定の礎となった。



③ 県内戦後初 鶴戸の名勝指定

平成29年10月13日、鶴戸神宮を含む鶴戸崎一体が、「鶴戸」の名称で国の名勝に指定された。宮崎県内では5件目、戦後では初めてとなる。鶴戸神宮は年間100万人が訪れる市内随一の観光名所で、日向神話の舞台としても知られる。波食棚や隆起海蝕洞などの周囲の特徴的な地形・地質と古くからの信仰が結びついた風致景観の観賞上の価値が高く評価された。





宇検村・伊仙町・奄美市による 歴史文化基本構想【鹿児島県】

■策定年月：平成23年3月 ■人口：1,773人 ■面積：103km²
■担当課：宇検村教育委員会事務局文化財係（平成30年3月現在）
※以上宇検村情報



宇検村は、伊仙町・奄美市とともに平成20年度から3カ年にわたり、文化財の総合的な把握と、保存・活用を推進するための「歴史文化基本構想」の策定事業に取り組んだ。3市町村が相互に関連性のある広域市町村圏として共同で取り組み、奄美群島全体を視野に入れて検討し、沖縄諸島や九州本土とは違う奄美群島に固有な文化財の価値や位置づけを行ってきた。

5 歴史文化を表す つのキーワード

大切なものの、親しまれてきたもの、敬われてきたもの、
将来に引き継いでいきたいもの、守り伝え残したいもの

課題

- ・幅広い時代、文化財の掘り起こしを行うこと
- ・沖縄や九州にはない奄美群島に固有な文化財の価値や位置づけを行うこと

保存活用方針

- ・文化財の情報収集とリスト化を進める
- ・歴史的、文化的環境を将来に伝えることを基本とする

保存活用のための取り組み

倉木崎海底遺跡シンポジウム

歴史文化保存活用区域内の倉木崎海底遺跡に関するシンポジウムを開催した。地域住民が遺跡の価値を改めて認識することを目的に実施。シンポジウム二日目には遺跡見学会を計画し、村内外から多くの参加者があった。遺跡の説明板とパンフレット等の整備も実施した。



集落探訪ウォークラリー

歴史文化保存活用区域である宇検集落は、「『琉球寫真景』に描かれた景色が残る集落」という特徴を活かし、集落探訪ウォークラリー「古絵図琉球寫真景に描かれた宇検村を巡る旅」を計画。古絵図に関連する集落遺産を巡りながら、クイズに応えるイベントを実施した。



墓石調査・食文化調査

文化庁の補助事業である文化遺産を活かした地域活性化事業を活用して、村内の墓石調査と食文化調査を実施した。保存活用方針に沿い、地域の特徴を理解する上で重要な2項目の情報収集とリスト化を行った。墓石調査は報告書を作成し、食文化調査はパンフレットを作成した。



集落遺産カレンダー

3市町村共同の歴史文化基本構想の原点となる「市町村遺産」でリスト化した情報を集落ごとにまとめ、イラストで表現した。作成したイラストを活用してカレンダーを制作し、村内全戸に配布した。身近にある文化遺産を地域住民に再認識してもらうことを目的とした。





歴史文化保存活用区域



●宇検村では、活用地区を「歴史文化保存活用区域」と設定し、保存活用の検討を行った。当外区域は、「南北航路の拠点」である宇検村宇検集落の特徴を示すため、集落と倉木崎海底遺跡を含む。

●テーマは「航路の拠点 南北の文化が融合したシマ『宇検集落』」

●倉木崎海底遺跡と宇検集落内で発見された碇石からは、中世の海上交易活動の存在を読み取ることができる。

●近世時代、現在の宇検村は屋喜内間切と呼ばれており、宇検集落が中心地として栄えていた。

●集落の墓地には、「ダンナ墓」と呼ばれる山川石と加治木石を使用した薩摩藩の役人の墓石群がある。役所跡や射場跡など薩摩藩統治時代を示す文化遺産がある。

●『琉球寫眞景』には当時の宇検集落の様子が描かれており、その対象は往来する船や人々の居住空間など細部にわたる。空間構造の変遷を知るうえで重要な絵画資料。



策定後の成果（見込まれる効果）

① 村の文化遺産の把握

「集落遺産」「市町村遺産」など身近にある文化遺産のリスト化を行ったため、村内の重要文化財（指定文化財等）以外の文化的資源を抽出することができた。指定を受けた文化財だけではなく、生活基盤となる集落そのもの、習慣そのものが貴重な文化遺産であることにより、地域の価値を再認識することができた。



② 基本構想に基づいた事業

宇検村では、歴史文化基本構想に基づき補助事業を実施してきた。平成23年～平成27年まで「文化遺産を活かした地域活性化事業」の採択を受け、墓石調査や食文化調査を実施。さらに平成27年には「地域の特色を活かした埋蔵文化財活用事業」の採択を受け、倉木崎海底遺跡のシンポジウムを実施した。開催により村民の遺跡に対する関心が高まった。



③ 村の観光事業への影響

地域の歴史や文化は観光資源としても重要な要素であり、リスト化した文化遺産を活用する場でもある。観光行政と文化財行政が一緒になり、歴史文化基本構想を基礎にして、活用の方法を試行錯誤することが今後必要となる。その際、「保存」の観点からも集落景観に十分留意することが必要である。





宇検村・伊仙町・奄美市による 歴史文化基本構想【鹿児島県】

■策定年月：平成23年3月 ■人口：6,362人 ■面積：627 km²
■担当課：伊仙町教育委員会社会教育課（平成30年3月現在）
※以上伊仙町情報



奄美の歴史・文化を象徴する関連文化財群を「奄美遺産」と定義し、その適切な保存・活用を目指す。伊仙町の歴史文化基本構想とは、国内有数の亜熱帯の森とサンゴ礁環境のもとに営まれた人々の暮らしや文化に注目し、いわゆる文化財の枠にとらわれない人々が畏れ、敬い、守り、伝えたいモノ、事柄、事象などをまるごと大切にする取り組みである。

5 歴史文化を表す つのキーワード

琉球列島、奄美群島、亜熱帯の森と海、
窯業生産、奄美遺産（歴史遺産・生活遺産・集落遺産）

課題

- 専門的担当者が不在
- 都市設計や観光部局との連携不足
- 取組にあたっての、住民の合意

保存活用方針

- 奄美遺産の掘り起し
- 奄美遺産の本質的価値を見極める
- 世界自然遺産登録への取組と足並みをそろえる
- 奄美群島全域で取り組む

保存活用のための取り組み

遺産の掘り起し

文化遺産を活かした地域活性化事業（文化庁補助事業）を活用し、平成22年から平成26年度にかけて伊仙町内における奄美遺産の調査を進め、調査報告書を刊行した。また、調査成果を広く普及するため、奄美遺産調査成果報告会を開催した。



わが故郷の文化財探訪

伊仙町中央公民館主催の公民館講座にて、島内の文化財めぐりを毎年開催している。リビーターも多く、好評を得ている。また探訪地は文化財にこだわらず、黒糖工場見学なども行なっており、奄美遺産の考え方や理念についても説明している。



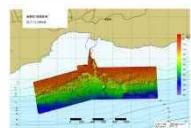
面縄貝塚史跡指定記念シンポジウムの開催

面縄貝塚（縄文時代～中世）の史跡指定を記念したシンポジウムを開催（面縄集落は、伊仙町における歴史文化保存活用区域の筆頭候補となっており、本遺跡は国史跡として関連文化財群の核心となすことが確実視される）。



島内近海域と沿岸部の調査

伊仙町には中世の窯業生産跡『徳之島カムイヤキ陶器窯跡（国史跡）』が所在するため、これらの運搬と関わる積出港の探索を進め、海底地形測量図を作成した。面縄集落の近海では、近世・近代の鉄錨が複数発見されており、カムイヤキ時代にさかのぼる港が発見される可能性が見込まれる。



関連文化財群



伊仙町には国立公園指定6区域、国指定史跡2件、国指定天然記念物1件、国登録有形文化財1件、県指定文化財2件、町指定文化財35件が所在している。

これらを中心に据えると、関連文化財群は以下の10ストーリーによってまとめられる。伊仙町においては、特有の自然環境と調和した固有の文化が展開し、琉球と薩摩に両属した複雑な歴史的経緯を物語る独自の文化が醸成された点に注目して関連文化財が選定されている。

ストーリー

- ①島の成り立ちから現代にいたる歴史をつたえる遺産
- ②シマンチュの精神を伝える「ケンムン（小妖怪）伝承
- ③豊かな自然の恵みに育まれた島の生業
- ④多様な言語の存在を今に残す島口
- ⑤島の暮らし・心を伝える唄と踊り
- ⑥自然に寄り添い、支えられたシマの行事
- ⑦暮らしの中に残された「あそび」
- ⑧島から生み出された芸術・文学
- ⑨島の暮らしを彩る島料理
- ⑩それが個性を放つ集落遺産

策定後の成果（見込まれる効果）

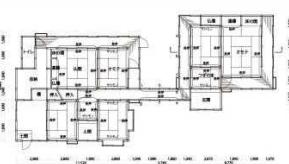
①トレイルコースの設定

所管する文化財情報の蓄積と積極的発信によって、島内観光の利便性を高めることを目的としたトレーリルコースの設定が検討されることになった。庁舎内の他部局連携のきっかけとなり、官民一体となって文化財を活かしたまちづくりを推進する雰囲気が高まる効果が期待される。



②古民家再生等による地域活性化

伊仙町がすすめる空き家対策事業として、古民家の再生と宿泊地利用が計画されている。策定した歴史文化基本構想に基づいた修繕方法を提案し、文化財としては未指定であっても、文化財としての適切な取り扱いと伝統的建築物の積極的な活用の両立が期待される。また歴史文化基本構想の策定は、観光部局、建設業者との連携強化に寄与することが見込まれる。



③日本遺産登録への展開

歴史文化基本構想を策定した奄美市・伊仙町・宇椄村が中心となって、奄美群島全市町村が連携したシリアル型の日本遺産登録を呼びかけており、現在登録に向けた担当者協議を行っている。本構想の策定が、広域的に取り組む文化財の保護と活用に向けた指針となる効果が見込まれる。





宇検村・伊仙町・奄美市による 歴史文化基本構想【鹿児島県】

■策定年月：平成22年3月 ■人口：43,361人 ■面積：100,252km²
■担当課：奄美市委員会文化財課（平成30年3月現在）※以上奄美市情報



奄美市・宇検村・伊仙町の3市町村で、文化財を活かした地域づくりのためのマスタークリーンとして位置づけ策定している。奄美群島全体を対象とした今後の広域的取組を期待して、将来ビジョン案を示したものである。具体的には、有形・無形の文化財で奄美的特徴を理解する上で欠かせないものを、「歴史遺産」「生活遺産」「集落遺産」の重点テーマとして設定、それぞれにストーリーを設定、関連文化財群まで抽出した。その上で、それらに共通する保存活用上の課題を把握し、今後の取組方針を検討した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

島嶼、複雑な行政統治、境界、
森林・河川の発達、琉球文化地域

課題

- ・文化財の総合調査が不十分で、奄美群島の相対的特徴が未解明
- ・文化財保存に対する行政側の支援体制が脆弱
- ・継続的な啓発普及の取り組みが不足

保存活用方針

- ・文化財総合データベースの整備
- ・奄美遺産の登録・認定システムの確立
- ・奄美遺産の解説図書の作成

保存活用のための取り組み

文化財総合データベースの整備 に向けて

奄美遺産活用実行委員会で、平成26年度に奄美的文化財の総合的情報が利用できるWEBサイト「電子ミュージアム奄美」を開設。また奄美市立奄美博物館で、平成30年度に「奄美希少野生動植物データベース」構築事業に取り組む。市内文化財の総合的な情報発信を進めている。



奄美遺産の登録・認定システム の確立に向けて

奄美群島12市町村で構成している「奄美群島文化財保護対策連絡協議会」で、歴史文化基本構想に従いながら、「奄美シマ遺産」のリストを、12市町村で毎年更新している。現在、12市町村で連携して「日本遺産」認定をめざして取り組みを開始している。



奄美遺産の解説図書の作成に向 けて①

奄美遺産活用実行委員会で、平成27年度に奄美市内の文化財を集落別にまとめた奄美市シマ遺産ハンドブック『ふるふる奄美』を500冊発行。観光業界にも重点的に配布したところ、非常に好評で部数が不足したため、PDF版を「電子ミュージアム奄美」で公開している。

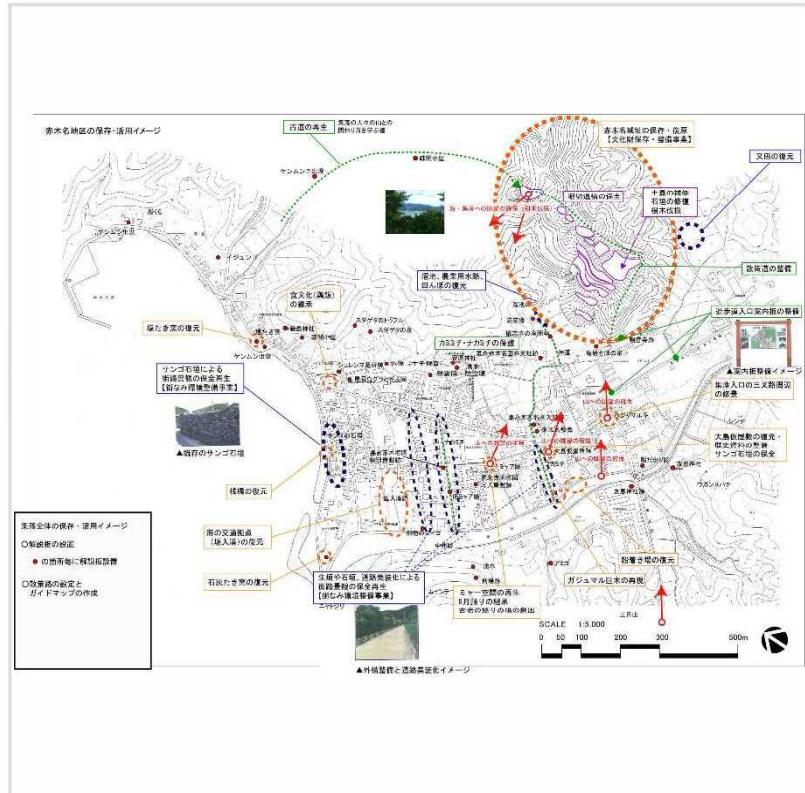


奄美遺産の解説図書の作成に向 けて②

奄美遺産活用実行委員会で、平成28年度に奄美方言について、手軽に活用できるように、また観光でも異文化を楽しく理解しながら使えるように、日常生活に密着したシマグチの基本単語500語、例文90文を収録したシマグチハンドブックを発行した。（4,000部）



関連文化財群



【歴史遺産】奄美群島の社会的役割や特徴的事象に関連した文化財群を、各時代で拾い上げ、その歴史像を明らかにする。

【生活遺産】人と自然との濃密な関係を有する文化財群を拾い上げ、文化の固有性や多様性を明らかにする。

【集落遺産】特徴的な空間構造、年中行事、伝承世界、景観要素等を共有し、継承している集落（シマ）を、ひとつの関連文化財群として捉え、島民の世界観を明らかにする。

ストーリー

- ①先史時代の文化交流を示す遺産
- ②琉球統治時代を今に伝える遺産
- ③薩摩統治時代を今に伝える遺産
- ④奄美群島の近代化を物語る遺産
- ⑤戦争と戦後復興の足跡を示す遺産
- ⑥「ケンムン」伝承
- ⑦多様な言語の存在を今に残す島口
- ⑧島の歴史・暮らし・心を伝える島唄
- ⑨自然に寄り添うシマの行事
- ⑩薩摩藩の統治拠点「赤木名集落」

策定後の成果（見込まれる効果）

① 「旧暦」が身近な暮らしに

奄美遺産活用実行委員会で、平成24～26年度に発行した「奄美旧暦行事カレンダー」は、市民に大好評で定着したため、平成27年度から市の単独予算で発行を続けている。毎年7,000人以上に利用され、地元マスコミにも浸透し、旧暦で行われている伝統的行事や自然界の変化等が、広く共有できるようになっている。その結果、伝統的行事に対する関心が高まりはじめている。



② 地域のお年寄りから方言を学ぶ

奄美市教育委員会では、平成27年度から「シマグチ伝承活動推進事業」に市独自に取り組んでいる。市内全ての小中学校で、校区内のお年寄りを講師に招いて方言を学んだり、方言を学ぶ各校独自の取り組みが実践されている。その他、方言カレンダー、方言カルタ等の副教材や奄美遺産活用実行委員会による「シマグチハンドブック」の配布も実施している。



③ 地域の自立的活動の展開へ

平成27年度に国史跡・赤木名城跡、平成31年度に国史跡・小湊フワガネク遺跡の保存活用計画（見込み）の策定に取り組んでいる。史跡が所在する地域で、自立的な文化財活用の動きが活発になりはじめていて、平成30年度には、小湊集落が、史跡を活かした地域活性化事業を自主的に立ち上げる予定。赤木名集落も、史跡の清掃等の取り組みが実践されている。



九州・沖縄地方



南城市【沖縄県】歴史文化基本構想

■策定年月：平成23年3月 ■人口：43,598人 ■面積：50km²
■担当課：南城市委員会文化課（平成30年3月現在）



基本構想は、地域の文化遺産をその周辺地域も含めて総合的に保存・活用することをめざしており、文化遺産を核にして地域の各種施策を統合し、一貫性のある取り組みを行うマスタープランである。まちづくりや景観計画等との連携、地域住民の参加を進めながら、文化遺産を適切に保存活用するための指針として策定しており、13の保存活用区域を先行的に設け、文化遺産の維持管理、整備、活用等の方向性を示している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

琉球発祥の地・南城、民のはじまり、農業のはじまり、統一王朝のはじまり、国家儀礼のはじまり

課題

- ・社会構造や価値観の変化
- ・過疎化、少子高齢化による文化財保護の担い手の減少

保存活用方針

- ・文化遺産をまもる
- ・文化遺産をいかす
- ・文化遺産をつなぐ

保存活用のための取り組み

尚巴志活用マスタープランの策定及び実施

歴史文化基本構想で関連文化財群として提示された「尚巴志と下の世の主」、「第一尚氏の光と影」をテーマに、南城市出身の偉人「尚巴志」に係る文化遺産を包括的に活用していく計画書を策定した。現在はこの計画書に基づき、市内文化遺産を活用した事業を開催している。



南城市集落域文化遺産サイン整備

市民が地域への愛着や誇りをもてるよう、各地域の歴史文化資源を生かしたまちづくりを進めている。集落内に点在する文化遺産を周遊できるコース設定等により来訪者の利便性を高めるとともに、住民自らが地元の文化遺産を知り、継承していくことができる環境づくりを行っている。



保存活用（管理）計画の策定

南城市内には国の文化財として10件の指定を受けている。歴史文化基本構想策定後3件（大里城跡・佐敷城跡・斎場御嶽）の国指定文化財の保存活用（管理）計画を策定した。それぞれの史跡が拠点となる文化財となっており、計画を策定する際の指標として歴史文化基本構想を活用した。



国指定史跡の整備

保存活用区域の拠点となる知念城跡、糸数城跡、玉城城跡、斎場御嶽等の国指定史跡の整備事業を実施し、地域住民をはじめ、その活用に供するほか、文化財愛護に寄与している。



◆ 関連文化財群



南城市的関連文化財群の分布

本構想・計画では文化遺産を新たな視点でとらえなおし、南城市的文化遺産を「歴史遺産」「環境遺産」「民俗遺産」の3つの要素に分類している。特に本構想・計画では「歴史遺産」の要素を中心におくことで、「琉球発祥の地・南城」と結びつく関連文化財群を設定した。

ストーリー

- ①「人のルーツ」
- ②「琉球の国造り」
- ③「玉城王とその子孫」
- ④「尚巴志と下の世の主」
- ⑤「第一尚氏の光と影」
- ⑥「東御廻り」
- ⑦「海と共生」

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① 尚巴志活用マスター プランの実践

平成26年度から、尚巴志の紙芝居・絵本の製作や舞台劇の製作・上演などの事業を実施した。平成29年度は市内全小学校（9校）で尚巴志の紙芝居のアウトリーチを継続して実施し、4カ所の文化遺産で伝統芸能等を市民に披露した。人材育成のため、9集落で文化遺産を活用するための尚巴志塾を開催し、地域に残る文化遺産の活用の活性を図っている。



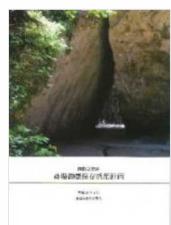
② 南城市集落域文化遺産サイン整備

保存活用地区を中心に市内の23集落に文化遺産のサインを整備し、市内外の来訪者に各集落の文化遺産の案内を行っている。加えて一部の集落では独自のガイドを立ち上げ集落案内を実施している。これによって、今まで知られていなかった文化遺産を来訪者が知ることができるようになるとともに、住民にもその価値を再認識してもらう契機となっている。



③ 保存活用（管理）計画の策定

平成29年度までに、島添大里城跡・佐敷城跡・斎場御獄の保存活用（管理）計画を策定し、その保存・整備・活用に向けた事業を実施している。平成30年度からは糸数城跡の保存活用計画の改定を予定しており、歴史文化基本構想の中で示した関連文化財群における活用地区の拠点となる文化財の保存・整備・活用のための計画書の策定が進んでいる。





大宜味村【沖縄県】 歴史文化基本方針

■策定年月：平成22年4月 ■人口：3221人 ■面積：70km²
■担当課：大宜味村教育委員会教育課（平成30年3月現在）



大宜味村歴史文化基本方針は、本村の歴史文化の特性をわかりやすく整理しながら、歴史文化を活かしたむらづくりの基本的な考え方を定めたものである。本村の歴史文化の基本的な認識として、また文化財をめぐる保全・活用の方針として、今後の行政計画に活用されることを目指している。

5 歴史文化を表す つのキーワード

地域での保存継承、歴史的環境の保存継承、先人たちの技術継承
祭祀・伝統芸能の展開、根謝銘城の保存・活用

課題

- ・調査・保存・継承の推進
- ・地域住民の意識向上のための活動
- ・観光や建設との連携、情報共有し、観光情報公開の検討

保存活用方針

- ・字の歴史環境を一体的に保存継承
- ・祭祀や伝統芸能による地域のつながりを村全体へ展開
- ・根謝銘グスクを核として保存活用
- ・自然と生きた先人の技術を継承

保存活用のための取り組み

①根謝銘グスクの文化財調査

平成28年度より学芸員が配置され、平成29年度から文化庁の補助を受け、埋蔵文化財調査を行っている。平成29年度は踏査および試掘調査を実施し、現存、遺構や遺物包含層の確認を行った。今後も継続的に調査を実施し、数年おきに報告書を刊行、保存・活用に向け、検討を行っていく予定である。



②工芸技術の保存・継承

本村には重要無形文化財（工芸技術）である喜如嘉の芭蕉布があり、伝承者育成事業を実施している。今後も継続して実施していく予定である。またその他の工芸技術の活用、周知展開を実施していく予定。



③指定文化財の整備・活用

平成29年度から天然記念物である田港御願の植物群落の植生調査、説明板の設置を実施した。平成30年度は引き続き、事業を実施する予定である。また、その他の指定文化財に関しても保存管理、普及活用を推進するため、事業展開の検討を実施する。



④普及活用・保存継承の検討

村内にある文化財を後世により永く残していくため、村の文化財指定への取組、既存文化財の村民への周知のため、展示会や文化講演の実施に向け検討していく。



おおぎみ展の事例

◆ 大宜味村の歴史文化の特徴



自然とともに育んできた各集落に残る個性的な拝所や祭祀、生産技術、厳しい地形、環境から生まれた生活基盤や生産遺構、建造物、特徴的な埋蔵文化財などをまとまりごとに調査、記録し、文化財としての魅力を高め、村民とともに理解を深め、村内外に発信していく取り組みを推進していく。

取組イメージ

- ① 沖縄最北の拠点としての根謝銘グスクの調査に取り組み、保存・活用していく。
- ② 各集落に残る個性的な伝統祭祀（ウンガミ等）や拝所を調査し、地域同士のつながりや歴史文化の流れについてまとめ、発信していく。
- ③ 自然の実りから生まれた生産技術（芭蕉布、旧序舎、猪垣、炭焼窯）の継承、保存・活用に取り組み、発信していく。

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

① グスク・埋蔵文化財調査の実施



② 文化財と村民の一体化



指定文化財への取組を実施や保存・活用を推進することにより、村民の「文化財=近寄りがたい」というイメージを払拭し、生活に密着した大事な財産であるという意識向上が期待される。
例：村指定文化財の説明板製作設置

③ 観光拠点としての期待

根謝銘グスクの調査が今後、進んでいく中で保存・活用の計画に取り組み、各部署と連携し、観光拠点としての活用が期待される。
例：トレッキングや堀切体験ツアー、現地学習会などの根謝銘グスクを利用した学習会やツアーなどがあげられる（根謝銘グスク整備・活用基本計画抜粋）また、根謝銘グスクの拝所として利用されている部分もあり、利用マナーや調査、整備の方法が課題にあげられる。



西原町【沖縄県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成28年2月 ■人口：34,948人 ■面積：16km²
■担当課：西原町教育委員会生涯学習課（平成30年3月現在）



本構想は「西原町まちづくり基本条例」の理念をふまえ、町内の文化遺産およびその周辺環境を総合的に保存・活用するための方針などを定めている。さらに、町における各関連計画との整合・連携を図ることによって、文化遺産の保存および文化遺産をいかしたまちづくりのマスター・プランと位置づける。

5 歴史文化を表す つのキーワード

金丸ゆかりの地、激戦地西原、首里城と歴史の道、
豊かな祭祀芸能、土より成るグスク

課題

- ・「文化遺産の保存のあり方」
- ・「文化遺産のまちづくりへの活用」
- ・「文化遺産を守り伝えるひとづくり」

保存活用方針

- ・「文化遺産を知る・体験する」
- ・「文化遺産を守る・高める」
- ・「文化遺産をいかす・広める」

保存活用のための取り組み

文化遺産カルテの作成・更新

構想策定の過程において、町内に点在する文化遺産約1,200件のカルテを作成した。対象となる文化遺産は、現存するもの、消滅したもの、新たに形成されるものとなっており、構想策定後も継続してカルテの更新等を行っている。



文化遺産の記録保存

西原町において優先して保存すべき文化遺産10件の3D測量を行い、現状記録の保存を行った。あわせて、町民が目で見てわかりやすく文化遺産を理解してもらえるよう、3D測量にもとづく映像資料を作成した。



「保存活用計画」の策定

構想策定において設定された「関連文化遺産群」「保存活用区域」のうち、優先されると考える2つの「保存活用区域」の個別計画を策定した。そうすることにより、保存活用のための具体的な取り組みに進むことが可能となる。

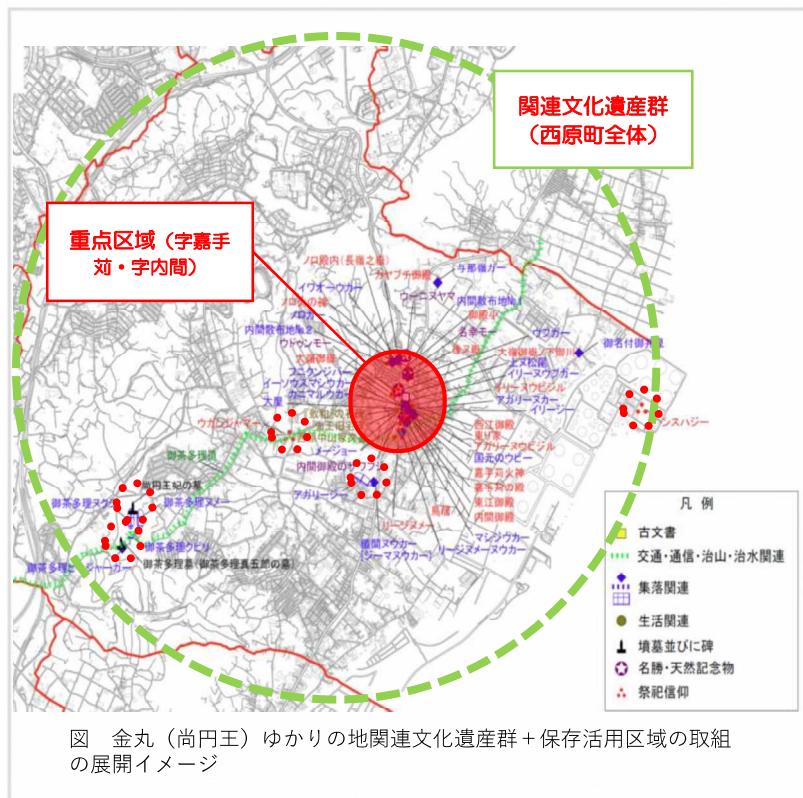


ミニシンポジウムの開催

構想策定にともない、各地域ごとに懇談会を開催し、住民からの意見を募った。その中で、積極的な地域においてミニシンポジウムを開催した。シンポジウムでは、地域の文化遺産や祭祀芸能を継承するための取り組みについて意見を交わした。



◆ 関連文化財群



西原町では、町の歴史・文化的な資源を「文化遺産」と捉え、構想における関連文化財群についても、関連文化遺産群という名称を使用している。(a)把握しやすい(b)利点をいかせる(c)町内全域をパワー(d)今後も見直し・追加を行う、という考え方のもと、町の歴史文化の特徴である「金丸ゆかりの地」「激戦地西原」「首里城と歴史の道」「豊かな祭祀芸能」「土より成るグスク」等のキーワードを設定している。

ストーリー

- ①金丸（尚円王）ゆかりの地関連文化遺産群+保存活用区域
- ②戦争の記憶関連文化遺産群
- ③稻作とまつり関連文化遺産群
- ④製糖と軌道関連文化遺産群
- ⑤グスクの多様性関連文化遺産群

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

①町民への周知啓発

構想策定で収集した文化遺産の情報をパンフレットやHP等で発信し、町民への周知啓発を図ることで、町民の学びに寄与し、地域コミュニティの絆や、誇りの熟成に役立てる。また、地域散策等を行うことで、地域への関心が高まり、文化遺産の整備や個別計画の策定等につなげる。



②個別計画策定の推進

構想策定で設定された「関連文化遺産群」「保存活用区域」それぞれの個別計画を策定することによって、より具体的な保存活用のための取り組みが推進される。個別計画の策定には、多くの地域住民の意見を反映していく。



③文化遺産を周遊できるサイン整備

幸地グスク周辺保存活用区域は、構想策定と同時に保存活用計画を策定し、翌年にサイン整備計画を策定した。今後は、幸地グスク内を通る首里城と中城城跡とを結ぶ歴史の道をテーマとした広域的な周遊ルートと、幸地グスクと周辺集落や文化遺産を巡る狭域的なルートを楽しむサイン整備等を進める。





伊平屋村【沖縄県】 歴史文化基本構想

■策定年月：平成29年3月 ■人口：1,256人 ■面積：23km²
■担当課：伊平屋村教育委員会教育課（平成30年3月現在）



伊平屋村は伊平屋島と野甫島からなる鹿児島県との境の東シナ海に浮かぶ村である。歴史文化基本構想の前年に実施した文化財悉皆調査の結果を踏まえ、村を5つのエリアに分け、活用地域とし、そのテーマと文化財の分布を示し関連遺産群とした。

5 歴史文化を表す つのキーワード

島の成り立ち（ジオ）、古歌に詠われる原風景、
琉球国成立とのつながり、漁労文化、まつりと祈り

課題

- ・本村住民への歴史文化基本構想の周知
- ・グスク関連遺跡調査の実施

保存活用方針

- ・ガイドブックの作成による普及啓発
- ・指定による文化財の保護

保存活用のための取り組み

ジオガイドの作成

伊平屋島の北部地域は島の成り立ちや特徴を端的に現す自然資源が豊富にある。この地域を中心としたジオガイドを作成し、地元小中学校の理科のフィールドワークで利用できるガイドブックの作成をする。観光協会等にはデータによるガイドブック配布を行う。



島の山頂にあるグスクの継続調査

歴史文化基本構想策定における調査により所在が確認された、賀陽グスク（仮称）と腰岳グスク（仮称）の継続調査を行う。



石切場の利用の聞き取り調査

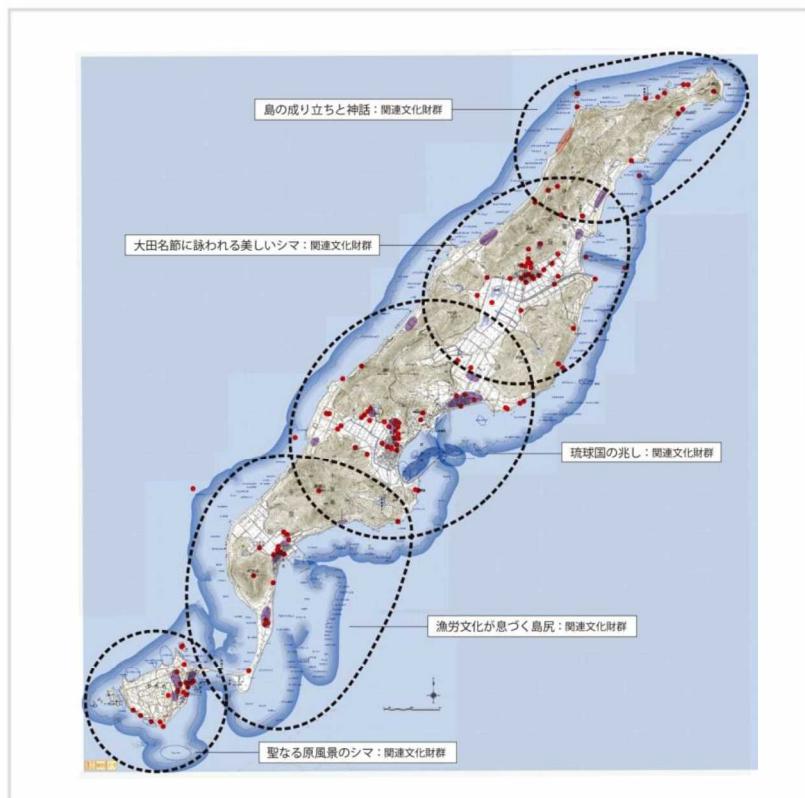
村の南側にある野甫島（野甫集落）は1島、1集落、1小中学校で構成される独立性の高い琉球石灰岩の島である。既往の記録資料が少なく、集落の原風景を形成している琉球石灰岩の屋敷囲いの供給方法が不明であるため、石切場の利用について住民への聞き取り調査を行う。その際に島内中小学生の聞き取り調査への参加を検討する。

住民向けに文化財紹介文章を定期発行する

本村在住の全世帯に配布される「広報いへや」に文化財を紹介するコラムを連載する。指定・未指定にかかわらず住民关心の高いグスク関連の文化財や集落内に身近に存在するものを取り上げる。



◆ 関連文化財群



以下の3つの事象に注目し、左図に示すように5つの関連文化財群の特徴を現すストーリーを作成した。

- ①伊平屋島と野甫島の地形・地質を含めた自然環境と地域に伝わる神話。
- ②第一尚氏（琉球国王）の祖、屋蔵大主に関連する伝承とグスク。
- ③現在でも続く神事とムラごとの祭り。

ストーリー

- ①島の成り立ちと神話
- ②大田名節に詠われる美しいシマ(集落)
- ③琉球国の兆し
- ④漁労文化の息づく島尻
- ⑤聖なる原風景のシマ(集落)

◆ 策定後の成果（見込まれる効果）

①他事業との連携と文化資源保全

観光事業者による自然観光ツアーや文化資源の情報提供や文化資源保全のための参加者数の調整などの連携が図れる。本村は山中に在所する石積み遺構に近接して遊歩道が設置されており、山中を走るヴィレッジトレール開催時にはコース案内の設置等で文化財の破損が起きないようコース担当者との調整・情報共有が出来た。



②文化財に関するマスターplan

歴史文化基本構想がマスターplanとして機能することを期待している。5つの関連文化財群ごとの保存活用方針としてストーリーを設定し、それに沿ったかたちで文化財の指定・保存活用を進めることで各地区の特徴を打ち出せる事を期待している。



③歴史民俗資料館での活用

伊平屋村の歴史民俗資料館と歴史文化保存活用区域の連携を強め、相互の情報ネットワーク形成を図る。ストーリーを展示構成へ反映させることで、今まで展示する文脈が無かった収蔵物を展示することができ、展示の定期的な入れ替えも可能になる。

